

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365

KO HIRASAWA

1967 ~ 1968



(復 刻)

揚子江、^{地方}地獄、^果種々の^果、^果實際的が
いうことあり。¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹² ¹³ ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ ²² ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ³³ ³⁴ ³⁵ ³⁶ ³⁷ ³⁸ ³⁹ ⁴⁰ ⁴¹ ⁴² ⁴³ ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁰ ⁵¹ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁵ ⁵⁶ ⁵⁷ ⁵⁸ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁶¹ ⁶² ⁶³ ⁶⁴ ⁶⁵ ⁶⁶ ⁶⁷ ⁶⁸ ⁶⁹ ⁷⁰ ⁷¹ ⁷² ⁷³ ⁷⁴ ⁷⁵ ⁷⁶ ⁷⁷ ⁷⁸ ⁷⁹ ⁸⁰ ⁸¹ ⁸² ⁸³ ⁸⁴ ⁸⁵ ⁸⁶ ⁸⁷ ⁸⁸ ⁸⁹ ⁹⁰ ⁹¹ ⁹² ⁹³ ⁹⁴ ⁹⁵ ⁹⁶ ⁹⁷ ⁹⁸ ⁹⁹ ¹⁰⁰ ¹⁰¹ ¹⁰² ¹⁰³ ¹⁰⁴ ¹⁰⁵ ¹⁰⁶ ¹⁰⁷ ¹⁰⁸ ¹⁰⁹ ¹¹⁰ ¹¹¹ ¹¹² ¹¹³ ¹¹⁴ ¹¹⁵ ¹¹⁶ ¹¹⁷ ¹¹⁸ ¹¹⁹ ¹²⁰ ¹²¹ ¹²² ¹²³ ¹²⁴ ¹²⁵ ¹²⁶ ¹²⁷ ¹²⁸ ¹²⁹ ¹³⁰ ¹³¹ ¹³² ¹³³ ¹³⁴ ¹³⁵ ¹³⁶ ¹³⁷ ¹³⁸ ¹³⁹ ¹⁴⁰ ¹⁴¹ ¹⁴² ¹⁴³ ¹⁴⁴ ¹⁴⁵ ¹⁴⁶ ¹⁴⁷ ¹⁴⁸ ¹⁴⁹ ¹⁵⁰ ¹⁵¹ ¹⁵² ¹⁵³ ¹⁵⁴ ¹⁵⁵ ¹⁵⁶ ¹⁵⁷ ¹⁵⁸ ¹⁵⁹ ¹⁶⁰ ¹⁶¹ ¹⁶² ¹⁶³ ¹⁶⁴ ¹⁶⁵ ¹⁶⁶ ¹⁶⁷ ¹⁶⁸ ¹⁶⁹ ¹⁷⁰ ¹⁷¹ ¹⁷² ¹⁷³ ¹⁷⁴ ¹⁷⁵ ¹⁷⁶ ¹⁷⁷ ¹⁷⁸ ¹⁷⁹ ¹⁸⁰ ¹⁸¹ ¹⁸² ¹⁸³ ¹⁸⁴ ¹⁸⁵ ¹⁸⁶ ¹⁸⁷ ¹⁸⁸ ¹⁸⁹ ¹⁹⁰ ¹⁹¹ ¹⁹² ¹⁹³ ¹⁹⁴ ¹⁹⁵ ¹⁹⁶ ¹⁹⁷ ¹⁹⁸ ¹⁹⁹ ²⁰⁰ ²⁰¹ ²⁰² ²⁰³ ²⁰⁴ ²⁰⁵ ²⁰⁶ ²⁰⁷ ²⁰⁸ ²⁰⁹ ²¹⁰ ²¹¹ ²¹² ²¹³ ²¹⁴ ²¹⁵ ²¹⁶ ²¹⁷ ²¹⁸ ²¹⁹ ²²⁰ ²²¹ ²²² ²²³ ²²⁴ ²²⁵ ²²⁶ ²²⁷ ²²⁸ ²²⁹ ²³⁰ ²³¹ ²³² ²³³ ²³⁴ ²³⁵ ²³⁶ ²³⁷ ²³⁸ ²³⁹ ²⁴⁰ ²⁴¹ ²⁴² ²⁴³ ²⁴⁴ ²⁴⁵ ²⁴⁶ ²⁴⁷ ²⁴⁸ ²⁴⁹ ²⁵⁰ ²⁵¹ ²⁵² ²⁵³ ²⁵⁴ ²⁵⁵ ²⁵⁶ ²⁵⁷ ²⁵⁸ ²⁵⁹ ²⁶⁰ ²⁶¹ ²⁶² ²⁶³ ²⁶⁴ ²⁶⁵ ²⁶⁶ ²⁶⁷ ²⁶⁸ ²⁶⁹ ²⁷⁰ ²⁷¹ ²⁷² ²⁷³ ²⁷⁴ ²⁷⁵ ²⁷⁶ ²⁷⁷ ²⁷⁸ ²⁷⁹ ²⁸⁰ ²⁸¹ ²⁸² ²⁸³ ²⁸⁴ ²⁸⁵ ²⁸⁶ ²⁸⁷ ²⁸⁸ ²⁸⁹ ²⁹⁰ ²⁹¹ ²⁹² ²⁹³ ²⁹⁴ ²⁹⁵ ²⁹⁶ ²⁹⁷ ²⁹⁸ ²⁹⁹ ³⁰⁰ ³⁰¹ ³⁰² ³⁰³ ³⁰⁴ ³⁰⁵ ³⁰⁶ ³⁰⁷ ³⁰⁸ ³⁰⁹ ³¹⁰ ³¹¹ ³¹² ³¹³ ³¹⁴ ³¹⁵ ³¹⁶ ³¹⁷ ³¹⁸ ³¹⁹ ³²⁰ ³²¹ ³²² ³²³ ³²⁴ ³²⁵ ³²⁶ ³²⁷ ³²⁸ ³²⁹ ³³⁰ ³³¹ ³³² ³³³ ³³⁴ ³³⁵ ³³⁶ ³³⁷ ³³⁸ ³³⁹ ³⁴⁰ ³⁴¹ ³⁴² ³⁴³ ³⁴⁴ ³⁴⁵ ³⁴⁶ ³⁴⁷ ³⁴⁸ ³⁴⁹ ³⁵⁰ ³⁵¹ ³⁵² ³⁵³ ³⁵⁴ ³⁵⁵ ³⁵⁶ ³⁵⁷ ³⁵⁸ ³⁵⁹ ³⁶⁰ ³⁶¹ ³⁶² ³⁶³ ³⁶⁴ ³⁶⁵ ³⁶⁶ ³⁶⁷ ³⁶⁸ ³⁶⁹ ³⁷⁰ ³⁷¹ ³⁷² ³⁷³ ³⁷⁴ ³⁷⁵ ³⁷⁶ ³⁷⁷ ³⁷⁸ ³⁷⁹ ³⁸⁰ ³⁸¹ ³⁸² ³⁸³ ³⁸⁴ ³⁸⁵ ³⁸⁶ ³⁸⁷ ³⁸⁸ ³⁸⁹ ³⁹⁰ ³⁹¹ ³⁹² ³⁹³ ³⁹⁴ ³⁹⁵ ³⁹⁶ ³⁹⁷ ³⁹⁸ ³⁹⁹ ⁴⁰⁰ ⁴⁰¹ ⁴⁰² ⁴⁰³ ⁴⁰⁴ ⁴⁰⁵ ⁴⁰⁶ ⁴⁰⁷ ⁴⁰⁸ ⁴⁰⁹ ⁴¹⁰ ⁴¹¹ ⁴¹² ⁴¹³ ⁴¹⁴ ⁴¹⁵ ⁴¹⁶ ⁴¹⁷ ⁴¹⁸ ⁴¹⁹ ⁴²⁰ ⁴²¹ ⁴²² ⁴²³ ⁴²⁴ ⁴²⁵ ⁴²⁶ ⁴²⁷ ⁴²⁸ ⁴²⁹ ⁴³⁰ ⁴³¹ ⁴³² ⁴³³ ⁴³⁴ ⁴³⁵ ⁴³⁶ ⁴³⁷ ⁴³⁸ ⁴³⁹ ⁴⁴⁰ ⁴⁴¹ ⁴⁴² ⁴⁴³ ⁴⁴⁴ ⁴⁴⁵ ⁴⁴⁶ ⁴⁴⁷ ⁴⁴⁸ ⁴⁴⁹ ⁴⁵⁰ ⁴⁵¹ ⁴⁵² ⁴⁵³ ⁴⁵⁴ ⁴⁵⁵ ⁴⁵⁶ ⁴⁵⁷ ⁴⁵⁸ ⁴⁵⁹ ⁴⁶⁰ ⁴⁶¹ ⁴⁶² ⁴⁶³ ⁴⁶⁴ ⁴⁶⁵ ⁴⁶⁶ ⁴⁶⁷ ⁴⁶⁸ ⁴⁶⁹ ⁴⁷⁰ ⁴⁷¹ ⁴⁷² ⁴⁷³ ⁴⁷⁴ ⁴⁷⁵ ⁴⁷⁶ ⁴⁷⁷ ⁴⁷⁸ ⁴⁷⁹ ⁴⁸⁰ ⁴⁸¹ ⁴⁸² ⁴⁸³ ⁴⁸⁴ ⁴⁸⁵ ⁴⁸⁶ ⁴⁸⁷ ⁴⁸⁸ ⁴⁸⁹ ⁴⁹⁰ ⁴⁹¹ ⁴⁹² ⁴⁹³ ⁴⁹⁴ ⁴⁹⁵ ⁴⁹⁶ ⁴⁹⁷ ⁴⁹⁸ ⁴⁹⁹ ⁵⁰⁰ ⁵⁰¹ ⁵⁰² ⁵⁰³ ⁵⁰⁴ ⁵⁰⁵ ⁵⁰⁶ ⁵⁰⁷ ⁵⁰⁸ ⁵⁰⁹ ⁵¹⁰ ⁵¹¹ ⁵¹² ⁵¹³ ⁵¹⁴ ⁵¹⁵ ⁵¹⁶ ⁵¹⁷ ⁵¹⁸ ⁵¹⁹ ⁵²⁰ ⁵²¹ ⁵²² ⁵²³ ⁵²⁴ ⁵²⁵ ⁵²⁶ ⁵²⁷ ⁵²⁸ ⁵²⁹ ⁵³⁰ ⁵³¹ ⁵³² ⁵³³ ⁵³⁴ ⁵³⁵ ⁵³⁶ ⁵³⁷ ⁵³⁸ ⁵³⁹ ⁵⁴⁰ ⁵⁴¹ ⁵⁴² ⁵⁴³ ⁵⁴⁴ ⁵⁴⁵ ⁵⁴⁶ ⁵⁴⁷ ⁵⁴⁸ ⁵⁴⁹ ⁵⁵⁰ ⁵⁵¹ ⁵⁵² ⁵⁵³ ⁵⁵⁴ ⁵⁵⁵ ⁵⁵⁶ ⁵⁵⁷ ⁵⁵⁸ ⁵⁵⁹ ⁵⁶⁰ ⁵⁶¹ ⁵⁶² ⁵⁶³ ⁵⁶⁴ ⁵⁶⁵ ⁵⁶⁶ ⁵⁶⁷ ⁵⁶⁸ ⁵⁶⁹ ⁵⁷⁰ ⁵⁷¹ ⁵⁷² ⁵⁷³ ⁵⁷⁴ ⁵⁷⁵ ⁵⁷⁶ ⁵⁷⁷ ⁵⁷⁸ ⁵⁷⁹ ⁵⁸⁰ ⁵⁸¹ ⁵⁸² ⁵⁸³ ⁵⁸⁴ ⁵⁸⁵ ⁵⁸⁶ ⁵⁸⁷ ⁵⁸⁸ ⁵⁸⁹ ⁵⁹⁰ ⁵⁹¹ ⁵⁹² ⁵⁹³ ⁵⁹⁴ ⁵⁹⁵ ⁵⁹⁶ ⁵⁹⁷ ⁵⁹⁸ ⁵⁹⁹ ⁶⁰⁰ ⁶⁰¹ ⁶⁰² ⁶⁰³ ⁶⁰⁴ ⁶⁰⁵ ⁶⁰⁶ ⁶⁰⁷ ⁶⁰⁸ ⁶⁰⁹ ⁶¹⁰ ⁶¹¹ ⁶¹² ⁶¹³ ⁶¹⁴ ⁶¹⁵ ⁶¹⁶ ⁶¹⁷ ⁶¹⁸ ⁶¹⁹ ⁶²⁰ ⁶²¹ ⁶²² ⁶²³ ⁶²⁴ ⁶²⁵ ⁶²⁶ ⁶²⁷ ⁶²⁸ ⁶²⁹ ⁶³⁰ ⁶³¹ ⁶³² ⁶³³ ⁶³⁴ ⁶³⁵ ⁶³⁶ ⁶³⁷ ⁶³⁸ ⁶³⁹ ⁶⁴⁰ ⁶⁴¹ ⁶⁴² ⁶⁴³ ⁶⁴⁴ ⁶⁴⁵ ⁶⁴⁶ ⁶⁴⁷ ⁶⁴⁸ ⁶⁴⁹ ⁶⁵⁰ ⁶⁵¹ ⁶⁵² ⁶⁵³ ⁶⁵⁴ ⁶⁵⁵ ⁶⁵⁶ ⁶⁵⁷ ⁶⁵⁸ ⁶⁵⁹ ⁶⁶⁰ ⁶⁶¹ ⁶⁶² ⁶⁶³ ⁶⁶⁴ ⁶⁶⁵ ⁶⁶⁶ ⁶⁶⁷ ⁶⁶⁸ ⁶⁶⁹ ⁶⁷⁰ ⁶⁷¹ ⁶⁷² ⁶⁷³ ⁶⁷⁴ ⁶⁷⁵ ⁶⁷⁶ ⁶⁷⁷ ⁶⁷⁸ ⁶⁷⁹ ⁶⁸⁰ ⁶⁸¹ ⁶⁸² ⁶⁸³ ⁶⁸⁴ ⁶⁸⁵ ⁶⁸⁶ ⁶⁸⁷ ⁶⁸⁸ ⁶⁸⁹ ⁶⁹⁰ ⁶⁹¹ ⁶⁹² ⁶⁹³ ⁶⁹⁴ ⁶⁹⁵ ⁶⁹⁶ ⁶⁹⁷ ⁶⁹⁸ ⁶⁹⁹ ⁷⁰⁰ ⁷⁰¹ ⁷⁰² ⁷⁰³ ⁷⁰⁴ ⁷⁰⁵ ⁷⁰⁶ ⁷⁰⁷ ⁷⁰⁸ ⁷⁰⁹ ⁷¹⁰ ⁷¹¹ ⁷¹² ⁷¹³ ⁷¹⁴ ⁷¹⁵ ⁷¹⁶ ⁷¹⁷ ⁷¹⁸ ⁷¹⁹ ⁷²⁰ ⁷²¹ ⁷²² ⁷²³ ⁷²⁴ ⁷²⁵ ⁷²⁶ ⁷²⁷ ⁷²⁸ ⁷²⁹ ⁷³⁰ ⁷³¹ ⁷³² ⁷³³ ⁷³⁴ ⁷³⁵ ⁷³⁶ ⁷³⁷ ⁷³⁸ ⁷³⁹ ⁷⁴⁰ ⁷⁴¹ ⁷⁴² ⁷⁴³ ⁷⁴⁴ ⁷⁴⁵ ⁷⁴⁶ ⁷⁴⁷ ⁷⁴⁸ ⁷⁴⁹ ⁷⁵⁰ ⁷⁵¹ ⁷⁵² ⁷⁵³ ⁷⁵⁴ ⁷⁵⁵ ⁷⁵⁶ ⁷⁵⁷ ⁷⁵⁸ ⁷⁵⁹ ⁷⁶⁰ ⁷⁶¹ ⁷⁶² ⁷⁶³ ⁷⁶⁴ ⁷⁶⁵ ⁷⁶⁶ ⁷⁶⁷ ⁷⁶⁸ ⁷⁶⁹ ⁷⁷⁰ ⁷⁷¹ ⁷⁷² ⁷⁷³ ⁷⁷⁴ ⁷⁷⁵ ⁷⁷⁶ ⁷⁷⁷ ⁷⁷⁸ ⁷⁷⁹ ⁷⁸⁰ ⁷⁸¹ ⁷⁸² ⁷⁸³ ⁷⁸⁴ ⁷⁸⁵ ⁷⁸⁶ ⁷⁸⁷ ⁷⁸⁸ ⁷⁸⁹ ⁷⁹⁰ ⁷⁹¹ ⁷⁹² ⁷⁹³ ⁷⁹⁴ ⁷⁹⁵ ⁷⁹⁶ ⁷⁹⁷ ⁷⁹⁸ ⁷⁹⁹ ⁸⁰⁰ ⁸⁰¹ ⁸⁰² ⁸⁰³ ⁸⁰⁴ ⁸⁰⁵ ⁸⁰⁶ ⁸⁰⁷ ⁸⁰⁸ ⁸⁰⁹ ⁸¹⁰ ⁸¹¹ ⁸¹² ⁸¹³ ⁸¹⁴ ⁸¹⁵ ⁸¹⁶ ⁸¹⁷ ⁸¹⁸ ⁸¹⁹ ⁸²⁰ ⁸²¹ ⁸²² ⁸²³ ⁸²⁴ ⁸²⁵ ⁸²⁶ ⁸²⁷ ⁸²⁸ ⁸²⁹ ⁸³⁰ ⁸³¹ ⁸³² ⁸³³ ⁸³⁴ ⁸³⁵ ⁸³⁶ ⁸³⁷ ⁸³⁸ ⁸³⁹ ⁸⁴⁰ ⁸⁴¹ ⁸⁴² ⁸⁴³ ⁸⁴⁴ ⁸⁴⁵ ⁸⁴⁶ ⁸⁴⁷ ⁸⁴⁸ ⁸⁴⁹ ⁸⁵⁰ ⁸⁵¹ ⁸⁵² ⁸⁵³ ⁸⁵⁴ ⁸⁵⁵ ⁸⁵⁶ ⁸⁵⁷ ⁸⁵⁸ ⁸⁵⁹ ⁸⁶⁰ ⁸⁶¹ ⁸⁶² ⁸⁶³ ⁸⁶⁴ ⁸⁶⁵ ⁸⁶⁶ ⁸⁶⁷ ⁸⁶⁸ ⁸⁶⁹ ⁸⁷⁰ ⁸⁷¹ ⁸⁷² ⁸⁷³ ⁸⁷⁴ ⁸⁷⁵ ⁸⁷⁶ ⁸⁷⁷ ⁸⁷⁸ ⁸⁷⁹ ⁸⁸⁰ ⁸⁸¹ ⁸⁸² ⁸⁸³ ⁸⁸⁴ ⁸⁸⁵ ⁸⁸⁶ ⁸⁸⁷ ⁸⁸⁸ ⁸⁸⁹ ⁸⁹⁰ ⁸⁹¹ ⁸⁹² ⁸⁹³ ⁸⁹⁴ ⁸⁹⁵ ⁸⁹⁶ ⁸⁹⁷ ⁸⁹⁸ ⁸⁹⁹ ⁹⁰⁰ ⁹⁰¹ ⁹⁰² ⁹⁰³ ⁹⁰⁴ ⁹⁰⁵ ⁹⁰⁶ ⁹⁰⁷ ⁹⁰⁸ ⁹⁰⁹ ⁹¹⁰ ⁹¹¹ ⁹¹² ⁹¹³ ⁹¹⁴ ⁹¹⁵ ⁹¹⁶ ⁹¹⁷ ⁹¹⁸ ⁹¹⁹ ⁹²⁰ ⁹²¹ ⁹²² ⁹²³ ⁹²⁴ ⁹²⁵ ⁹²⁶ ⁹²⁷ ⁹²⁸ ⁹²⁹ ⁹³⁰ ⁹³¹ ⁹³² ⁹³³ ⁹³⁴ ⁹³⁵ ⁹³⁶ ⁹³⁷ ⁹³⁸ ⁹³⁹ ⁹⁴⁰ ⁹⁴¹ ⁹⁴² ⁹⁴³ ⁹⁴⁴ ⁹⁴⁵ ⁹⁴⁶ ⁹⁴⁷ ⁹⁴⁸ ⁹⁴⁹ ⁹⁵⁰ ⁹⁵¹ ⁹⁵² ⁹⁵³ ⁹⁵⁴ ⁹⁵⁵ ⁹⁵⁶ ⁹⁵⁷ ⁹⁵⁸ ⁹⁵⁹ ⁹⁶⁰ ⁹⁶¹ ⁹⁶² ⁹⁶³ ⁹⁶⁴ ⁹⁶⁵ ⁹⁶⁶ ⁹⁶⁷ ⁹⁶⁸ ⁹⁶⁹ ⁹⁷⁰ ⁹⁷¹ ⁹⁷² ⁹⁷³ ⁹⁷⁴ ⁹⁷⁵ ⁹⁷⁶ ⁹⁷⁷ ⁹⁷⁸ ⁹⁷⁹ ⁹⁸⁰ ⁹⁸¹ ⁹⁸² ⁹⁸³ ⁹⁸⁴ ⁹⁸⁵ ⁹⁸⁶ ⁹⁸⁷ ⁹⁸⁸ ⁹⁸⁹ ⁹⁹⁰ ⁹⁹¹ ⁹⁹² ⁹⁹³ ⁹⁹⁴ ⁹⁹⁵ ⁹⁹⁶ ⁹⁹⁷ ⁹⁹⁸ ⁹⁹⁹ ¹⁰⁰⁰

誰んか分かんなく、¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹² ¹³ ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ ²² ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ³³ ³⁴ ³⁵ ³⁶ ³⁷ ³⁸ ³⁹ ⁴⁰ ⁴¹ ⁴² ⁴³ ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁰ ⁵¹ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁵ ⁵⁶ ⁵⁷ ⁵⁸ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁶¹ ⁶² ⁶³ ⁶⁴ ⁶⁵ ⁶⁶ ⁶⁷ ⁶⁸ ⁶⁹ ⁷⁰ ⁷¹ ⁷² ⁷³ ⁷⁴ ⁷⁵ ⁷⁶ ⁷⁷ ⁷⁸ ⁷⁹ ⁸⁰ ⁸¹ ⁸² ⁸³ ⁸⁴ ⁸⁵ ⁸⁶ ⁸⁷ ⁸⁸ ⁸⁹ ⁹⁰ ⁹¹ ⁹² ⁹³ ⁹⁴ ⁹⁵ ⁹⁶ ⁹⁷ ⁹⁸ ⁹⁹ ¹⁰⁰ ¹⁰¹ ¹⁰² ¹⁰³ ¹⁰⁴ ¹⁰⁵ ¹⁰⁶ ¹⁰⁷ ¹⁰⁸ ¹⁰⁹ ¹¹⁰ ¹¹¹ ¹¹² ¹¹³ ¹¹⁴ ¹¹⁵ ¹¹⁶ ¹¹⁷ ¹¹⁸ ¹¹⁹ ¹²⁰ ¹²¹ ¹²² ¹²³ ¹²⁴ ¹²⁵ ¹²⁶ ¹²⁷ ¹²⁸ ¹²⁹ ¹³⁰ ¹³¹ ¹³² ¹³³ ¹³⁴ ¹³⁵ ¹³⁶ ¹³⁷ ¹³⁸ ¹³⁹ ¹⁴⁰ ¹⁴¹ ¹⁴² ¹⁴³ ¹⁴⁴ ¹⁴⁵ ¹⁴⁶ ¹⁴⁷ ¹⁴⁸ ¹⁴⁹ ¹⁵⁰ ¹⁵¹ ¹⁵² ¹⁵³ ¹⁵⁴ ¹⁵⁵ ¹⁵⁶ ¹⁵⁷ ¹⁵⁸ ¹⁵⁹ ¹⁶⁰ ¹⁶¹ ¹⁶² ¹⁶³ ¹⁶⁴ ¹⁶⁵ ¹⁶⁶ ¹⁶⁷ ¹⁶⁸ ¹⁶⁹ ¹⁷⁰ ¹⁷¹ ¹⁷² ¹⁷³ ¹⁷⁴ ¹⁷⁵ ¹⁷⁶ ¹⁷⁷ ¹⁷⁸ ¹⁷⁹ ¹⁸⁰ ¹⁸¹ ¹⁸² ¹⁸³ ¹⁸⁴ ¹⁸⁵ ¹⁸⁶ ¹⁸⁷ ¹⁸⁸ ¹⁸⁹ ¹⁹⁰ ¹⁹¹ ¹⁹² ¹⁹³ ¹⁹⁴ ¹⁹⁵ ¹⁹⁶ ¹⁹⁷ ¹⁹⁸ ¹⁹⁹ ²⁰⁰ ²⁰¹ ²⁰² ²⁰³ ²⁰⁴ ²⁰⁵ ²⁰⁶ ²⁰⁷ ²⁰⁸ ²⁰⁹ ²¹⁰ ²¹¹ ²¹² ²¹³ ²¹⁴ ²¹⁵ ²¹⁶ ²¹⁷ ²¹⁸ ²¹⁹ ²²⁰ ²²¹ ²²² ²²³ ²²⁴ ²²⁵ ²²⁶ ²²⁷ ²²⁸ ²²⁹ ²³⁰ ²³¹ ²³² ²³³ ²³⁴ ²³⁵ ²³⁶ ²³⁷ ²³⁸ ²³⁹ ²⁴⁰ ²⁴¹ ²⁴² ²⁴³ ²⁴⁴ ²⁴⁵ ²⁴⁶ ²⁴⁷ ²⁴⁸ ²⁴⁹ ²⁵⁰ ²⁵¹ ²⁵² ²⁵³ ²⁵⁴ ²⁵⁵ ²⁵⁶ ²⁵⁷ ²⁵⁸ ²⁵⁹ ²⁶⁰ ²⁶¹ ²⁶² ²⁶³ ²⁶⁴ ²⁶⁵ ²⁶⁶ ²⁶⁷ ²⁶⁸ ²⁶⁹ ²⁷⁰ ²⁷¹ ²⁷² ²⁷³ ²⁷⁴ ²⁷⁵ ²⁷⁶ ²⁷⁷ ²⁷⁸ ²⁷⁹ ²⁸⁰ ²⁸¹ ²⁸² ²⁸³ ²⁸⁴ ²⁸⁵ ²⁸⁶ ²⁸⁷ ²⁸⁸ ²⁸⁹ ²⁹⁰ ²⁹¹ ²⁹² ²⁹³ ²⁹⁴ ²⁹⁵ ²⁹⁶ ²⁹⁷ ²⁹⁸ ²⁹⁹ ³⁰⁰ ³⁰¹ ³⁰² ³⁰³ ³⁰⁴ ³⁰⁵ ³⁰⁶ ³⁰⁷ ³⁰⁸ ³⁰⁹ ³¹⁰ ³¹¹ ³¹² ³¹³ ³¹⁴ ³¹⁵ ³¹⁶ ³¹⁷ ³¹⁸ ³¹⁹ ³²⁰ ³²¹ ³²² ³²³ ³²⁴ ³²⁵ ³²⁶ ³²⁷ ³²⁸ ³²⁹ ³³⁰ ³³¹ ³³² ³³³ ³³⁴ ³³⁵ ³³⁶ ³³⁷ ³³⁸ ³³⁹ ³⁴⁰ ³⁴¹ ³⁴² ³⁴³ ³⁴⁴ ³⁴⁵ ³⁴⁶ ³⁴⁷ ³⁴⁸ ³⁴⁹ ³⁵⁰ ³⁵¹ ³⁵² ³⁵³ ³⁵⁴ ³⁵⁵ ³⁵⁶ ³⁵⁷ ³⁵⁸ ³⁵⁹ ³⁶⁰ ³⁶¹ ³⁶² ³⁶³ ³⁶⁴ ³⁶⁵ ³⁶⁶ ³⁶⁷ ³⁶⁸ ³⁶⁹ ³⁷⁰ ³⁷¹ ³⁷² ³⁷³ ³⁷⁴ ³⁷⁵ ³⁷⁶ ³⁷⁷ ³⁷⁸ ³⁷⁹ ³⁸⁰ ³⁸¹ ³⁸² ³⁸³ ³⁸⁴ ³⁸⁵ ³⁸⁶ ³⁸⁷

序

私がガバナー時代にガバナース レターに書いたものを、もう一度わが京都東ロータリー クラブで再刊して下さるとのことである。何ともありがたいことであるが、しかし、実は他面また恥かしくもあり、恐ろしくもあり、始めはあまり私の気は進まなかった。だが、会員諸君の勉強のためにとの熱心なおすゝめもあり、敢えて承諾することにした。これらの文章は会員諸君に対するというよりは、むしろ、私自身に対して確固たるロータリアンたるの心定めをするためのもので、何れも筆のまにまに書くなどという気楽のものではなく、たえず何かを探し求めながら、燃えるような気持ちで書いたものである。だからそういう気持ちでお読み下されば、多少は固苦しい文章の中からも、何かを求めてやまない温かいものが湧いて来るであろう。

今こうして自分の文章を再讀して、しみじみ感謝にたえないのは、当時ガバナース レターの受け持ちだったチャーターメンバーの木下伊平君の御労苦である。私のきたない原稿をいつもにこにことして、きれいに整理して戴いた御友情にはたゞたゞ心から頭がさがる。

ロータリアンにとって、ロータリーを知ることは絶対の条件であろう。だが、唯それが知識として頭にあるだけでは、あまり大したことではなく、ロータリアンにとって最も望ましいのは、それがからだにとけこんで、日常生活の中でおのずからロータリーの香りが湧き出るような姿であろう。

愛する諸君！ 互に手を握りあって、楽しく明るいロータリーを生きようではないか。そしてロータリアンとして、あくまでもよき京都人、よき日本人、更にはよき世界人に成長しようではないか。

この道は一すじの限りない道であり、世界人類に共通の大道である。

四月の花を讃えつつ

平 淳 興

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 1 July 1, 1967

ガバナー月信 第1信 (昭和42年7月1日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長並びに幹事殿

平澤興

ガバナー月信は、本来ガバナーが毎月地区内 R.C. の会長及び幹事へ送るおたよりです。しかし、同時に会員諸君にも、よくその趣旨が徹底するようにと、従来慣習的に直接会員諸君にも、その「写」が送られております。どうか会長幹事はよきリーダーとして、会員諸君はそのよき積極的協力者として、ますますロータリーのクラブ活動が向上するよう、あくまでも自主的な姿をおとり下さい。ロータリークラブは、そういう積極性と自主性を基盤として、奉仕の理想に向って限りなく前進と実行とを続ける組織なのです。受け身ではだめ、飽くまでも積極的に明るく、楽しく！



A Message

from The President of Rotary International

1967-68

*Make your
Rotary membership
effective*

- Get personally involved in Rotary
- Exercise leadership by being successful in your own business or profession
- Be loyal to your own community and nation and serve them wherever possible
- Keep informed and develop an understanding of the problems of peoples of other nations

Luther H. Hodges
President

1967-68年度 国際ロータリー会長メッセージ

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

- ロータリーの活動に自ら進んで参加すること
- あなたの職業に成功を収めることにより指導力を発揮すること
- あなたの地域社会や国家に対し忠誠を捧げ、あらゆる機会に奉仕すること
- 他国の人々の問題によく通じ、これが理解を深めること

ルーサー H ホッジス

就任の ことば

会長並びに幹事諸君！ 新年おめでとう。ロータリーの新年おめでとう。つよい7月の陽光と目もさめる7月の濃緑は、いかにも前進してやまないロータリーの理想を象徴しておるかのようです。悔なき充実したロータリーのこの1年を送るため、しっかりと手をつなぎ、心を一つにして、栄光にみちたロータリーの大道を堂々と、奉仕と友情の理想を秘めて前進しましょう。一人の人間として、家庭人として、職業人として、ロータリーの理想を身につけ、更に地域社会から、ロータリーの世界共同体にまでその眼を開き、実行をひろげて、よきパパたると同時に、世界の心を心とした、大きなロータリアンになりましょう。そして何よりも口先きだけではなく、日々の生活の中にロータリーを生かしましょう。ロータリーの心を頭で理解するだけではなく、われわれの血の中にとかし、われわれの行動の中に生かしましょう。ロータリアンとして生長する、そこに必ず人間としての幸福も成功もあるのです。

本年のホッジス R. I. 会長こそは、正に文字通り、そういう理想的なロータリアンです。その長い実業家、政治家、社会事業家としての深い経験が、会長メッセージの中に集約されています。このメッセージは読めば読むほど、さらさらとしたすなおさの中に、無限の真実と力とを含んでいますが、わたしはホッジス会長と握手をした際、これはただの言葉ではなく、69年の実行の裏打ちが、その中にあるということを感じました。何度も何度も読みかえして下さい。わたしも毎日くりかえし、くりかえし、これを読みかえして、その奥にある言葉の無限の味を、ほんとうにわたしのものになりたいと念じています。

「ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に——ロータリーの活動に自ら進んで参加しましょう。」さらさらとしながら、しかも何たる強烈な響きを持つ言葉でしょう。しかし、ホッジス会長自身もレークブラッドで言われたように、「真剣になるのはよいが、あまり深刻になりすぎないように」いたしましょう。「ありのままに、好意的にふるまって下さい」。ありのままに、好意的にふるまう——何というおおらかな姿でありましょう。われわれも、ロータリーをからだにとかし、からだにつけて、そうなるよう今日の生活を生かしましょう。ニコニコと今日の命を生きて、限らないロータリーの生活を楽しみましょう。

会長並びに幹事の各位、限りなく、みのりの多い1年を心から祝福申しあげます。どうぞ会員諸君にも、各位の御家庭の方々にも、私の心からのこの祈りをお伝え下さい。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 2 July 15. 1967

ガバナー月信 第2信 (昭和42年7月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス RI 会長

ア ド レ ス

尊敬するパストガバナー各位、親愛なる次年度の会長、幹事、会報委員の各位、本日ここに1967~68年度のロータリー第365区ガバナーエレクトとして、アドレスを述べる機会を与えられましたことは、まことに私の光栄とするところでありますが、同時にその重大なる責任に身の引きしまる思いが致します。しかし、私は本日、各位の元気なお姿に接し、眉間にただよう各位のご決意の程をまのあたり拝見して、必ずや本地区の次年度のロータリー活動には見るべきものがあろうことを確信し、ロータリアンとしての喜びをかみしめております。

ご承知のように、私は次年度のガバナーノミネーとして去る4月29日から5月6日まで北米ニューヨーク州の北部なるレーク・ブラッドの国際協議会に列し、教育を受け、更に去る5月23日から5月26日まで仏国ニースのロータリー国際大会に出席して、偉大なロータリーの活動とその世界性を直接自らの目、自らの肌で感じて、文字通り、身ぶるいするような強烈な感激にうたれました。たしかにロータリーは生きています。そして今日も明日に向かって逞しい成長をつづけつつあるのです。私はエバンス R. I. 会長、ホッジス次期会長を始め、数多くのロータリアン達のあたたかい友情のぬくみを胸一杯にだきしめて帰りました。

ロータリーにおける奉仕の理想と世界的友情——それは頭でわかるとか、わからぬなどというものでなく、からだ全体で、心全体で、じかに感じとるべきものでありましょう。

諸君、地区協議会の目的は、ご承知の通り、教育及び情報の提供と地区活動の調整などですが、

先ずもって私がレーク・ブラシッドで受けて来たこの胸のぬくみを諸君に伝えて、ロータリーの感激を新たにしてもらいたいのであります。そして私は諸君が今日ここで時間の許す限り、グループ別の討議を通じて、リーダーやカウンセラー方のご指導のもとに、できるだけ自由に話しあって、次年度第365区のロータリー活動についての研究をして戴きたいのであります。もとより限られた時間で、心ゆくまですべての問題について討議することは不可能でしょうが、何れあとで行われるリーダーシップ・フォーラム参加の方々などと共に、各位のロータリークラブで研究をつづけて戴きたいと存じます。

第365区のロータリークラブと言っても、クラブの大小はもちろん、その地域や歴史などがいろいろ違いますので、その問題となるところも様々でありましようが、会長として、幹事として、また会報委員として最も重要なことは、ホッジス次期会長も言われるように、何よりも先ず身を以て、ロータリー活動に情熱を捧げることです。私も諸君と共にある限りの情熱を傾け、私の最善をつくして、第365区のロータリー活動に挺身し、国際ロータリーの前進に寄与したいと念じています。受け身ではなく、あくまでも積極的に頑張らましよう。

このことは「国際ロータリーの基本方針」からも、むしろ当然のことです。国際ロータリー理事会(1962~63)が採択したその基本方針は、ぜひ一度かみしめてお読みを願いたいと存じますが、そこには、先ず各ロータリアンによるロータリー綱領推進の重要性が述べられ、ついで国際ロータリー運営の根本原則が加盟ロータリークラブの実質的な自治性にあることが強調され、さらに運営に関してはある程度の制限はあるが、これが最小限度にとどめられており、この制限規定内にあって、各地域ではその実状に応じて国際ロータリーの方針を解釈し、実行するよう最大の融通性が認められているのであります。

この国際ロータリーの基本方針はたしかに読めば読むほど味が出ます。どうもロータリーは規則づくめだとか、規則がやかまし過ぎるとか、よく言われ、私自身もたしかにそう思ったことがあります。しかし、ロータリーにもポール・ハリスが



これを始めた頃には何もそんな規則とか、定款などというものはなかったのであります。会員が少い間はお互の話しあいだけで万事よかったのであります。それが次第に大きくなり、国境を越え、宗教や人種を越えて世界的のものになるにつれて、お互の間の理解と連絡のために約束として規約が必要となったのであります。

定款とか規則とかいうと、とかく、つい固くなり、抵抗を感じ易いのであります。実はそれは文化的な社会とか、組織における一つの公けの約束であります。私自身規則には格別弱い人間で、規則に対する抵抗感のようなものはまことによく分かるのであります。私はこの度のロータリー国際協議会などに出席して、しみじみとその誤りを感じ、ロータリーの手続や規則などをまとめている「手続要覧」などにしても、実はロータリーをここまで発展せしめた先人達の血と汗の結晶なのだ、ということに気がつきました。

国際ロータリーでもなるべく、こまかなことは言わず、世界のロータリー組織の横のつながりがくずれない限り、できるだけ各ロータリークラブの融通性を認めようというのが、その基本方針であります。しかし、これはあくまでもある制限内であり、この制限は、ロータリアンは世界的組織

の一員として承知せねばならず、またそういう了解の下で入会しているはずであります。もとよりこれは全会員が規則のすべてを暗記しておらねばならぬというようなことではなく、国法を知らなくとも道徳的に行動すれば、よき国民たり得るように、もしロータリークラブがある程度まで成長し、知らぬ間に、そこにロータリーの奉仕の理想と国際性とがとけこむような空気になれば、そのクラブの空気に同化することによって、自然とよきロータリアンにもなれるだろうし、むしろそういう状態こそが望ましいことでありましょう。しかし、クラブの中心としてその指導に当る会長や幹事は、やはり正しい方向に、国際組織としてのクラブの成長と指導のためにも、ロータリー運営の根本的なものには、よく通じておかねばなりません。

「実質的な自治性」とか「最大の融通性」などというと、一見何でもないようではありますが、真の意味で自治性とか、自主性とか、融通性などということは最もむずかしいことで、ここには単なる模倣ではない思考力と独創性が必要であり、世界組織としてのロータリアンたるためには、こういう点にも深く思いを致さねばなりません。

ついでにここで一言したいことは、分かると、分かったつもりとは違うということでもあります。規則の文字を暗記しても、必ずしもそれでその規則が本当に分かったとは言われぬので、この点も心しておくべきことでありましょう。たとえば「四つのテスト」などにしても、その文句を暗記することは簡単なことでありますが、真にその意味を理解するには、人生に対する真剣な態度と深い経験が必要であって、私は心から「四つのテスト」のすばらしさには感心しながらも、本当にはまだ私にも完全には分かっておらぬ、ということにやっと気がつき出して来ました。文字を知ることと、その心に通ずることとは、決して同じではなく、時にはそこに非常に距離があるのであります。そう思って読むと、ロータリーの「手続要覧」などにも、しばしば簡単な表現のなかに先人の血や汗が感じられ、規則の文字にも脈々たる命の流れのあることに気づきます。

次に次年度ロータリー活動の中心ともなるべきホッジスR.I.会長のメッセージを考えて見ましょ

う。ホッジスR.I.会長のメッセージは、実にさらさらとしていて、しかも、その中にはホッジス会長その人でなければ出ない味があります。ホッジス会長自身も言うておられるように、このメッセージは、「ロータリーの四大奉仕部門に関連したものであり、従って、ロータリーの目的と計画から逸脱したことを強調しようとするものではありません」が、しかし、それだけ氏自身の長い体験から出たこのメッセージには、何か自然の重みがあります。

“Make your Rotary membership effective”「ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に」ということが全体の柱になっております。たしかにロータリーの会員は、名誉職でもなければ、特別のエリートでもなく、一業一人の原則によって、各種の職業からきびしい選考をへて選び出された人々で、職業を通じて社会に、国家に、世界に奉仕をしよう——超我の奉仕をしよう、という人々であります。会員自らもそういうことを承知をし、その上で入会されたわけですから、ただロータリーのバッジをつけただけでは、真のロータリアンとは言われません。積極的に自ら進んでその理想を実行してこそ、はじめて真のロータリアンたる名にふさわしいのです。しかし、このメッセージはガバナーたるわたし自身にも痛い言葉で、まず私自身がこれを熱意を以て実行せねばなりません。レーク・プラシッドでの国際協議会は、たしかにこの意味において、私に強い印象と覚悟とを与えました。同時に、私は、この時、東洋人として、日本人として、いろいろと民族的な特性について、もっと根本的な「汝の欲するところは之を人に施せ」ということと、東洋的な「汝の懲せざるところは之を人に施すな」という対照的な考え方があります。とかく東洋的な考え方が消極的になりがちなのに対して、西欧的の考え方は積極的です。これは単なるりくつではなく、われわれの生活と西欧の生活とを見ると、何となく、そういうものがあります。しかし、地球が次第に小さくなり、距離などというものが昔ほど意味を持たなくなりつつある現在では、やはりわれわれはもっと積極的にならねばならぬと思います。若ものは日本でも、次第にそういう傾向に成長しつつあるようでもあります。

しかし、そうかと言って相手の気持ちをあくまでも大切にしようという東洋的の考え方が、すべて間違いであるなどは毛頭私も考えてはおりません。相手の気持は尊ぶべきはどこまでも尊びながら、他方では世の中をよくしようというためには、時には自らを殺しても、もっと積極的になる必要があるでしょう。要するに、「汝の欲するところは之を人に施せ」ということと、「汝の欲せざるところは、之を人に施すな」ということのどちらがよいとか、悪いとかいうことではなく、この二つの要素を充分考え合わせて、深い思索のもとで行動してこそ、はじめて真に望ましい調和のある活動ができるのではないのでしょうか。

同じ日本でも、こういう事は都会と田舎とで随分と違うと思われませんが、ただ余り遠慮だけしているのでは何も出来ないでしょうし、また忙しい今日の世界では実際のでもないでしょう。

“Get personally involved in Rotary”——「ロータリーの活動に自ら進んで参加すること」——これはロータリーの奉仕の性格を考えれば、当然のことであり、また「ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に」ということになれば、それ以外の道はないでしょう。これは「ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に」という大前提につづく四カ条の中でもいわば中心ともなるべきもので、ニースの大会でのホッジス R. I. 会長の挨拶の中では、“Make your Rotary membership effective by becoming personally involved in Rotary”とつづけて、一つの文章として表現されております。これは、クラブ奉仕の諸活動にあてはまるのみならず、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕などの活動にも適用されます。“Get personally involved”という訳はむずかしく、どう訳しても、そのものずばりという日本語にはならないようですが、自ら進んで身を入れてやるとか、受け身ではなく進んでそれに没頭するとか、というような気持ちでしょう。私なども過去を顧みて、まことに恥ずかしい思いを致しますが、何とかこういう気持ちで頭ばりたいと思っております。

しかし、ホッジス R. I. 会長はたしかに、これを誇と自信を以て言い得る過去の実績をもっておられる方です。その明るく、しかもたくましい自信のある風貌に接すると、ほんとうにそうだ

なあ、と諾かれます。ホッジス会長は、今日までまことに多面的な活動をつづけてこれ、しかもどの方面でもそれぞれ成功をもたらされた方ですが、あくまでもロータリーの心を心とし、堂々と積極的に奉仕の生活を実行されて、今日に至り、69才の今日もお元気一杯に活躍をつづけておられる方です。実に友情にあつく思いやりの深い方だそうですが、一面信ずるところに向ってはあくまでも積極的に事を進められる方だそうでもあります。

“Exercise leadership by being successful in your own business or profession”——「あなたの職業に成功を収めることにより、指導力を発揮すること」——これも、まことに現実的で、ある意味ではあまりに現実的だとさえ見られるでしょう。しかし、そこにホッジス R. I. 会長の大地に足のついた確実性があるのであります。ホッジス R. I. 会長は、ロータリアンが自らの足でしっかりと大地に立つ自主性と行動力をもたないようでは、ロータリアンとしても強い指導力や影響力を持ってないと言われるのです。全く同感です。しかしきびしい現実の中で、あくまでもロータリーの綱領に従って行動することは決して容易なことではありません。だが、それだけにそういう信念と行動が出来れば職業における成功はたしかであり、また社会的な指導力も充分発揮し得るでありましょう。それは高い信念に立って行動することは、決してただ心懸けや、善意だけで出来るものではなく、人に数倍する意志力はもちろん、更らにそれにもましてどんな困難にも濁らない知恵がいるからです。成功、少くとも長つづきのする成功は、単なる幸運ではなく、職業に対する高い信念、挫けることのない強い意志、濁流を泳ぎぬく聡明な知恵と努力から来るものであります。

ホッジス R. I. 会長も言われるように、初期のロータリーにおいては、会員の事業上の成功を助けることも、その目的の一つでありました。ホッジス会長は、定款綱領の第二にうたっているように、若しすべてのロータリアンが「職業の高き道徳的基準、すべての有用な職業の価値あることの認識、そして社会に奉仕する好機としての各自の業務を、各ロータリアンにより権威あらしめること」というような確信に立って行動すれば、必ずそこには

職業における成功があると固く信じ、自らそれを実行してこられた方であります。財界において、政界において、その他、諸方面の活動において、氏はそれを確信を以て実践し、今日の地歩をしめられたのであります。だからホッジス R.I. 会長の言葉は何等のよそゆきも、てらいもなく、自らの経験をそのままに言葉にされたのです。ホッジス R.I. 会長を知って「あなたの職業に成功を収めることにより指導力を発揮すること」という会長の言葉に接すると、一見平凡に見えるこの言葉に一段と深さが加わるのです。ホッジス会長においては職業活動とロータリー活動とが、生活の中で全く一つにとけておるのであり、これこそが最も望ましいロータリアンの姿なのです。こういうすなおなロータリアンの心と姿をよく理解し、ロータリーの初期から今日までの発展の歴史を知る時、始めてよく、「奉仕の一つの機会として、知り合いを拡めて行くこと」とか、「最もよく奉仕をするものが、最も得るところが多い」という言葉がすなおに理解ができるように思われます。ロータリーは、そういう会員同志が事業上の成功を助け合うというような初期の先入観念から次第に脱皮発展してきて、次第に事業及び職業上の道徳的水準を高めるような方向に発展し、更に社会奉仕、国際奉仕などとひたむきな成長を遂げ、現在では国際奉仕 (International Service) から国際社会奉仕 (World Community Service) なる理想と実行とにまで進みつつあるのであります。国際奉仕はまだ国家とか民族とかいうものを認めての上の事ですが、World Community Service は、もうそう概念の上ではなく、世界とか、人類とかいうものを心の中で一つに考え、世界共同体という考えの上に立つことでありまして、考え方の上には明かに International Service と World Community Service との間には、一つの進歩があります。現実世界の混乱を思うと、World Community などという考え方は、あまりに現実離れがしているではないか、というような声も聞かぬでもありませんが、しかし、ロータリーの奉仕の理想が個人への奉仕から社会的、国家的、国際的奉仕となり、更に人類共同体への奉仕にまで伸びつつあることを思うと、世界社会奉仕には一つの必然性があり、非現実的とも見える夢の中にこそ将来のロータ

リーのゴールが示されているように思われます。

とにかく僅か62年前に、ポール・ハリスほか3人の会員によって始められたロータリーが、今日世界的に驚くべき発展をつづけつつあることは、正に世紀の奇蹟とも言われましょう。

“Be loyal to your own community and nation and serve them wherever possible”——「あなたの地域社会や国家に対し、忠誠をささげ、あらゆる機会に奉仕すること」——まことに当然のことですが、実は社会生活において歴史の浅い日本では、こんなことは分かり切っておるようでも、なかなか、そうではありません。Community、地域社会などという考え方は、北米のように近隣者の相互の結びによって社会をつくりあげて来た社会では極めて自然でしょうが、日本のような社会では必ずしもそうではなく、上下のつながりはよくとも横とのつながりは決してよくありませんでした。

これは地域社会と大学というような問題を取りあげてもよくわかることで、今後は別として、従来は大学は国の文化に貢献しても、あまり直接地域社会の文化には貢献しませんでした。とにかく、まず、自らの地域社会からよくして行くという考え方——しかもそれは命令とか、強制によるものではなく、自発的にこれをよくするということの望ましいことは、説明を要しません。そういう意味ではわれわれはもっと深く考えて、地域社会への奉仕に力を致しましょう。

国家につくすということが偏狭な愛国主義などと違うことは、ロータリーの国際性を考えれば、説明の必要はありますまい。むしろ広く世界を知り、人類を知ってこそ、始めて調和と平和の中で生きる一国のために奉仕ができれば。

“Keep informed and develop an understanding of the problems of peoples of other nations”——「他国の人々の問題によく通じ、これが理解を深めること」——ほんとうにそうです。

われわれは幸に今日も慾いだけ食べていますが、全世界から見ると、その2/3も何等かの意味で充分食物をとり得ない状態だといえます。単に、こういう問題だけではなく、世界には数々の問題があり、人類という立場に立てば、ある意味ではみな共通の問題であり、われわれすべてが努力せ



ねばならぬことでしょう。

とにかくロータリアンは世界のどこにあり、どのクラブに属していても人種、宗教、政治などを超越した世界的組織の会員であり、その意味においてはみな世界人であり、世界人たるべき使命を有するものであります。

ホッジス R.I. 会長のメッセージの意味するところはまことに広く、且つ深くございます。われわれはただの言葉としてだけではなく、ホッジスその人の心を心として、ロータリアンの名に恥じない行動をするよう努力いたしましょう。

ロータリーをからだにつけ、ロータリー的に日々の生活を生きましよう。メッセージに魂を入れるのは、われわれロータリアンの責任であり、楽しい義務でもあります。

次に均衡のとれたクラブ活動について考えて見たいと思いますが、その前に一つロータリー定款の綱領について自他ともに深い注意を喚起したいと存じます。ここではこの綱領には深くふれませんが、これこそロータリー活動のモーターたるべきものでありますから、私共は朝に夕にこれを心にしっかりと刻みつけておきましょう。ご承知のようにロータリーには、四大部門がありますが、望ましいロータリー活動には、その基礎としてこ

の四大部門の均衡のとれた活動が何よりも大切であります。国際ロータリー発展の歴史から見れば既に前にも触れたように、職業奉仕から始まり、クラブが大きくなるにつれてクラブそのものの世話をするクラブ奉仕となり、これを中心としてその活動は社会奉仕、国際奉仕という風にのび、更に世界共同体への奉仕、World Community Service という風に発展しつつあるのであります。ロータリーの四大部門は互に密接な関係を持ちながら、それぞれの特長活動を持つものであります。その中でもクラブ奉仕はクラブ活動の根底をなすもので、さらにその中には出席、職業分類、クラブ会報、親睦、雑誌、会員選考、プログラム、広報、ロータリー情報等の小委員会がもうけられ、S. A. A. もその重要なメンバーであります。クラブ奉仕はクラブの基本的なムードづくりには最も大切で、どの一つを考えてもいろいろ工夫すべき問題がありますが、何よりも各小委員会が一つ心にとけあって、横の連絡をとる事が必要であり、特に例会の持ち方などについてマンネリズムに陥ったり、独創を欠いたりすることのないように致したいものです。クラブ奉仕が一つ心にとけることなくしては、楽しい例会も、明かるいクラブも出来ません。クラブの中にわだかまりや、派閥的

のものや、感情のそごなどのないよう、世界的に広く、深く、明かるいセンスを持つように致しましょう。言葉の使い方などにしても、不必要なていねいさや形式などはさけて、なるべく素直な言葉を使うようにいたしましょう。

職業奉仕は各自の職業に対する深い自覚と自負の上に立つもので、職業奉仕こそは、一業一人をモットーとするロータリー活動の根源中の根源をなすもので、若し世界の人々がすべての自己の職業についてロータリーの示す如き自覚と自負とを持つようになれば、それだけでも世の中は、どれほどよくなることでしょうか。ロータリアンこそは、この意味でも世の光であり、ますます職業の権威を高からしめながら、それを通じて社会に貢献しましょう。「四つのテスト」などについても、もっと真剣に考え、真剣に話しあって、生活の中へ具現するよう努めましょう。

社会奉仕は Community Service の訳ですが、実は原語の気分は、すっきりとは出ておりません。Community というのは一般社会というよりはもっと身近な地域社会とでもいうべきもので、習慣、感情、利害などを同じくするような社会のことです。我々日本人には真の意味での Community 意識は、どうも不十分のようですが、大いに勉強して地域社会の実状をよく知り、最も各地域の実状に即して奉仕をするように勤めましょう。地域社会には交通安全、身体障害児、インター・アクト、青少年の教育問題等、ロータリークラブが貢献し得る問題はいろいろありますが、よく研究して最も効果的に活動しましょう。

国際奉仕、さらにそれから成長しつつある国際社会奉仕、World Community Service などが国際理解の増進や世界の平和に望ましいことは、いまさら説明するまでもありませんが、特にこの方面には、他国の組み合わせ地区との共同作業、世界社会奉仕、国際青少年交換計画、ロータリー財団の活躍（ロータリー財団奨学生、財団追加奨学生、大学在学中の学生に対する財団奨学生、専門的訓練のための補助、研究グループ交換等）等の種々の問題があります。地方のクラブでは国際奉仕や世界社会奉仕の仕事などには余り関心はないかも知れませんが、優秀である限りもとより地方出身者もこういう国際的計画に参加できるのであ

り、またホッジス R. I. 会長が言われるように「他国の人々の問題によく通じ、これが理解を深めること」のためには、直接関係の有無などにかかわらず、ロータリアンたる以上こういう国際奉仕にも充分関心を持つことが望ましいのであります。パリーの大通りシャンゼリゼーに松下や、ソニー、東芝などの製品を見るにつけても、われわれ日本人はもっと眼を開き、広い心を持った日本人にならねばなりません。いろいろの意味で国際理解は日本の将来にとっても、ますます必要になりますように。

私は最近、本年度アメリカの第 522 区との提携で 2 カ月アメリカでの「研究グループ交換」に参加して帰った 6 人の若い青年にあって、全くそのすばらしい成長振りに感心いたしました。若ものの眼はたしかで、僅か 2 カ月の研修としては驚くばかり多くを見、多くを学び、多くの問題を持って帰りました。特にこのグループ研究の人々で感じたのは、親しく肌でアメリカの人と土地とに接し、からだで感じて来たことで、研究室などにおける部分的把握ではなく、全人的な把握と成長をして来たことであります。私はこの際、研究グループ交換委員会（委員長 絹川清氏—京都 R. C.）と、若人のよきリーダーたりし奥村龍三氏（大阪北 R. C.）に対し、さらにまたすばらしい参加の青年諸君に対して、心からの敬意と感謝とを捧げたいと存じます。来年度はアメリカからの青年実業家を迎えることになっておりますが、どうぞ各地のロータリークラブでも格別のご協力をお願い申し上げます。

さて、健全な会員育成の問題ですが、何がロータリーにとって大切と言っても、これほど大切な問題はないでしょう。クラブのよしあしも、その活動の内容も最後的には、この問題にかかって来ます。これには先ず入会前の慎重公正な会員選考が最も大切ですが、しかし、ロータリーはそれ自体がたえず前向きに伸びつつある組織ですから、国際ロータリーの進歩におくれのないためには、願わくばその成長に積極的に貢献するためには、どうしても入会後もたえず自らの努力によってロータリアンとしての成長に努めねばなりません。

同時に大切なことは、クラブ全体としての空気

だと思ひます。クラブ自身に明かるくして、たえずそこに進歩のあるような楽しい空気があれば、自ら会員も成長いたしますが、そうでないと、なかなか会員の成長はむずかしいでしょう。たしかに会員の成長には各個人の努力のみならず、更にクラブ全体にもそういう空気と友情とがあることが望ましいのです。十分の審査をした会員ですから、困る会員などという不幸は起らぬはずですが、しかし、現実には必ずしもそうとばかりは言われません。そういう時クラブとして取るべき道は、私はあくまでもあたたかい友情と忍耐とであり、そういうものをも、よきロータリアンとして伸ばす努力だと思ひます。知る者は知らざるものを、強きものは弱きものに手をのぼし、力をかけてやるべきでしょう。

なおここで一言したいことは、ロータリーの規則にはこまかくは書いてないが、よきロータリアンたるためには、それ以前によき人間であるということでもあります。よき人間たることは、ロータリアンに先行する問題であり、これは実はロータリアンとしての選考の際に自から問題となることであり、各会員はよき個人、よき家庭人、よき職業人、よき社会人であるとの認定のもとで、ロータリークラブへの入会が認められたのであります。もとより入会后ロータリアンとして更に広い視野に立ち、よき友人を得て、ますます人間的成長をとげるようになりますが、ロータリアンとし

ては個々のロータリーの規則などに通ずるなどという前に、先ず以て人間として立派であることが絶対の前提であり、ロータリアンこそは社会的に模範となるべきものだと思います。

よきロータリアンたるためには、たえざる反省と努力とが必要であります。クラブとしてはたえず会員に必要な情報を提供し、前向きの活動に努力せねばなりません。ロータリアンは、その特典と義務をたえず反省し、一業一人として推薦されたことや、家庭から地域社会、さらには国家、世界などへの奉仕を理想とする組織の一員たることなどを深く自覚し、あくまでも積極的にロータリーの世界的発展に寄与したいものであります。ロータリアンは、どこにおっても心の中では世界の人々とともにいき、一つの世界共同体たるロータリーに生きているのであります。

諸君、1967～68年度のロータリー活動はもう目の前に迫って来ました。ロータリー第365区の次年度の活動がいかなるものになるかは先ず以て会長、幹事たる諸君とガバナーたる私の肩にかかっている所以であります。互に手を握りあつてすべての会員諸君の友情と熱意とを信じ、全会員と共に堂々と前進いたしましょう。情熱の燃えるところ、必ず道は開けます。諸君、今はただ前進あるのみです。

—1967. 6. 24 国立京都国際会館における国際ロータリー第365区1967～68地区協議会より—

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 3 August 15. 1967

ガバナー月信 第3信 (昭和42年8月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

ロータリーにもっと童心と自然を

今年は随分暑さが厳しうございますが、皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。私も去る7月10日から大津クラブを振り出しにガバナー公式訪問を始め、京都、京都南、京都北、大阪北、大阪東、大阪、京都西、宇治、高槻、大阪淀川の11ロータリー・クラブの訪問をすませ、親しくその活動振りを拝見いたしました。私が公式訪問を終えたのは、この地区の全クラブのまだ1/4に過ぎませんが、しかし、これらのクラブを廻ってしみじみ感じたことは、さすがにロータリアンは皆立派で、まじめだということでもあります。少くとも今まで訪問した限りでは、どのクラブでも、ずぼらというような印象を受けたところは一つもなく、皆それぞれにその発展に苦心をしておられます。既にまわったクラブでも、クラブの大小とか、地域社会の状態は決して一様ではなく、従って活動上の苦心もそれぞれ違いますが、どのクラブにしても、ロータリーの理想が高く、しかもたえず前向きに向上しているだけに、これを達成することは容易ではなく、各位のご努力に対しては心からあつく感謝しております。たしかにロータリーの道は奉仕の道ひとすじであります。しかし、職業を通じて社会、Community に対する奉仕には限りがありません。今やロータリーでは、この Community なる理念は地域社会から国家を越えて世界社会にまで伸びつつありますが、われわれは、どこのロータリー・クラブに属するにしても、同時にロータリーのいわゆる世界共同社会の一員であり、この共同社会において、出来る限りの奉仕をせねばなりません。人類のすべてが、こういう社会奉仕の念に燃える時、この雑音の多い社会もそのまま神の国となり、雑音はそのまま、もはや単なる雑音ではなく、単調を破るバラティにもなり得るのではないで

しょうか。一筋の奉仕の理想に燃えて限りなき理想の実現を夢めている私は、この頃しみじみと生きる喜びを感じています。

しかし、ロータリーはあまりにも巨大であります。一通りその規則を理解することはそれほどの難事ではないでしょうが、その全貌をからだで感じ取るとは決して容易ではありません。もとより現在の私にもそれは出来ません。しかし、私はロータリー体得の夢は決して捨てていません。

ロータリーで最も重要なことの一つは、その創始者ポール・ハリスの素朴な心にかえることでしょう。いろいろの職業人が集まり、自らの天職の尊さに目醒めながら、世の中を明るく、正しくしよう、というポール・ハリスの素朴な心——そういう自然の心を何よりも先ずしっかりと身につけたいものです。去るニースの国際大会委員会の委員長であった Gian P. Lang 氏は、かつて R.I. 会長の時のターゲットの第一に 'Keep Rotary Simple' 「ロータリーを簡潔に」と叫んでおりますが、本年度の Hodges R.I. 会長もこのことに言及しておられました。生物などを見ても、とかく進化は多くは分化であり、分化は多くは複雑化なので、ロータリーが進展につれて複雑になるのは、むしろある意味では自然のなり行きかと存じますが、しかし、そうであればあるほど、複雑な枝葉に心を奪われて、その中心となるべき最も大切な心棒を忘れてはなりません。素朴な心、あるがままの自然の心、なまの心——R.I. Hodges 会長はそういうもののシンボルのような人です。69年の激しい人生の波濤をのりこえながら、その心底をつくっているものは、濁らない童心の素朴さです。その明るさも、積極性さも、ある意味では、この素朴さの現れと見ることが出来ましょう。私はここで、先年 N.H.K. に招かれて来日した小児麻痺生ワクチンの発明者、Sabin 博士のレセプションの席上のことを思い出さずにはおられません。私はこの席上で "You are simple, you are very simple—but in the best sense of the word." 「あなたはシンプルです。あなたは大変シンプルです。しかしその言葉の最もよき意味において。」と言って歓迎の言葉を始めました。ところが、まだ酒の一滴もはいらぬ博士は感激されて、初対面の私を抱擁されたのです。濁らない純情、聖なる目標への熱情こそは、力の泉であり、明るさの源のようです。

ポール・ハリスの心、あたたかい心、しかし思い立っては挫けることのない積極的な心、そういうものをロータリーに取り戻したいと思います。ポール・ハリスの純なる心、R.I. 会長 Hodges のなまの心を、ぜひロータリーにとりもどしましょう。このなまの心は、我々が理解しているロータリーの心よりも、もっともっと自然で、それだけに強く、思うがままに笑え、思うがままに語り、思うがままに振舞う心です。明るいそれは弱さではなく、むしろ挫けることを知らぬ強さです。

私もこの頃、毎日何かしら、少しづつロータリーを学びつつあります。どうぞ各位も日ごとに何かを学び取って下さい。

今日も太陽があがりました。それは限りないロータリーの今日の一日です。切に各位のご健闘を祈ります。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 4 September 15. 1967

ガバナー月信 第4信 (昭和42年9月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

ロータリーにおける理想と現実

相変わらず日中はなかなか厳しい暑さですが、さすがに朝夕は凌ぎ易くなり、いわゆる夜の秋ともいべき季節になりました。私は熱心に公式訪問をつづけておりますが、9月2日現在でやっと20クラブを終ったばかりです。今までのところでは、どのクラブもまじめによく準備されておりますが、クラブの経験や、地域や或いは工夫などの差異により、その活動にはやはりいろいろの相違があります。

最も恐ろしいことは、クラブ活動の本質を充分極めずに、右へならえ式に事を運ぶことで、それはとりも直さず、熱意と工夫の欠乏を意味します。ロータリーは、その創立以来たえず前進を目ざし、事実また前進をつづけて参りました。ロータリーを知らば知るほど、感心するのは、その活動の中に理想主義と現実主義とが渾然として一つに溶けていることでもあります。たとえば、職業奉仕一つを例にとって見ても、職業は直接各自の生活の基盤そのものですが、ロータリアンの活動は、先ずこの自己の職業を立派に道徳的に遂行し、各自の職業を社会的尊敬と権威とを得るまでに向上せしめ、こういう立場で有用な他の職業の価値をも心から認識し、尊敬して、ややもすれば、ただ生活の手段のみの如く考えられる自らの職業そのものに、創意工夫と感謝とをこめて、世の中のためになるように奉仕をしようということであり、そして経験の示すところでは、この奉仕そのものが、ほんものであればあるほど、意識的に別に結果を求めなくとも最大の結果をもたらすことになるのであります。“He profits most who serves best”はポール・ハリスが Chesley R. Perry と共にロータリー中興の最大の人としてあげている Arthur F. Sheldon の提唱にかかるもので、ミネアポリス・ロータリアンの貢献に成る“Service above self”なる

標語とともに、1911年ポートランドにおける第2回全国大会、National Association of Rotary Clubsにおいて、はじめてロータリーの標語として採用されたものであります。ポール・ハリスの報ずる如く、シェルドンはミシガン大学卒業後、シカゴに出て、ある商社の予約図書販売係に就職しましたが、その当時は、シカゴの最悪時代で、その混沌たる実業界の状態は、若いシェルドンの心に深刻な感銘を与えずにはおきませんでした。美德には何の報酬もなきが如き暗い時代でありましたが、しかし物質的利益よりも名誉を重んずるシェルドンは、店主の期待する販売係の態度にはあくまで反対せざるを得ず、奮然として仕事着を手近かの小溝に投げ捨てて、辞職したのであります。シェルドンの標語には激しい生活の実践がかかっております。シェルドンの「最もよく奉仕するものが、最も多く利益を受ける」と言う標語の内容も、シェルドン自身も説く如く、二つの意味があります。その一は、その文字そのものの意味で、よく尽すほど儲けも大きい、という物質的の意味であり、その二は、単に商売上の損得のみではなく、「蔭徳あれば陽報あり」というような精神的な意味であります。儲けようという目的のためには手段を選ばぬという当時においては、シェルドンはむしろ、一般に向っては素朴な第一の意味で、いわば腐った商業道徳に反旗をひるがえしたのであります。同時により深く事を考え得る人々に向っては、この標語を第二の精神的意味に使ったのであります。たしかに、この標語は物質的にも精神的にもあてはまるもので、こころ当りにも、如何にもロータリーの現実面と理想面の二つが現れております。あまり事物をはじめから精神化するよりも、むしろはじめは現実的に見る方がわかり易く、また本当の意味ではむしろ理解もし易いのであります。殊にロータリーにはそういう面が少からずありますが、日本のロータリーでは、どうも精神的、抽象的な理解が多く、そのためかえってロータリーのなまのよさが分らぬような気が致します。こういうことは、ロータリーが今日まで歩いた跡を見ると、いろいろ教えられるところが多々ございます。たとえば、1906年1月、シカゴ・ロータリークラブの会則の中に初めてその姿を現わした二つの目標が、その第一は「会員の事業上の利益を促進すること」と書かれているのであります。「奉仕こそ我がつとめ」によりますと元国際ロータリーの或る会長はこれについて「職業奉仕は創立当初のクラブが、毎週、会員が発注又は受注したものを全部蒐集編纂する役目をもつ所謂、統計家と称するクラブ役員をおいたときに、実際に初まったのである。尤も斯様な職業奉仕は、うまく行かないことを発見した。さりながら、その頃でさえ、会員は既に相互扶助に努めていたのであるから、私は別にこれを恥とは思わない。」と。因みにロータリー綱領が今日の如く最終的に四項目に書き改められたのは、1935年であります。誠に深くわれわれが教えられるところは、国際ロータリーが高い理想を持ちながらたえずその不足や過ちを改めながら、柔軟な態度で前進しつづけて来たことであります。

ロータリー綱領の第二にある「総ての有用な職業の価値あることの認識」などという言葉の意味するところも、一見極めて簡単であります。どうもまだ日本のロータリーでは充分には認識されてはおらぬようであります。職業分類に一時期を画するような現時点では、改めて、もっと素直にこれらの表現の意味するものを真に理解するように努めなければなりません。

とかく、理想と現実などという、相反するもののように思われますが、真の理想主義はしっかりと現実に立脚し、しっかりと足を大地に踏みしめてこそ始めて可能だと存じます。理想家にとっては、決して失敗も無意味のものではなく、成功と同様に、否むしろ、それ以上に前進の大きな力となるものだと思います。どうぞロータリーの活動においてもあまり失敗を恐れず、創意工夫を以て逞しく前進して下さい。（9月3日稿）

ROTARY INTERNATIONAL

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 5 October 15, 1967

ガバナー月信 第5信 (昭和42年10月15日)

第365区ロータリークラブ

会長 並びに 幹事殿

国際ロータリー第365区ガバナー

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長



白浜における

国際ロータリー第365区年次大会

恐ろしい台風の時節も漸く過ぎて、日毎に秋は深まりますが、いよいよ御隆勝のことと存じます。さて、この月の月信の最大のニュースと言え、いわずもがな、10月2～3日の両日、田辺クラブをホストとし、白浜クラブをコ・ホストとして南紀・白浜町で開催された本年度の第365区地区大会であります。

さて、本年度のこの地区大会には従来と異った点が二つあったことが先づ指摘されます。その一は、前年まで殆んど大都市で行なわれ、地方都市と言っても福井市、大津市のような県庁所在地で開催されていましたが、今回は日本の三大泉都とは申しながらも、田辺市、白浜町を合せて人口僅か10万余の地方、白浜で行なわれましたこと。そ

の二は、従来、前夜懇談会と称して大会の前夜に会長・幹事の懇談会が催され、大会の提出議案の説明、開催地に対しての諸案件、次年度大会の等々について協議と懇談が持たれましたが、その日程の3日間を、今回は2日間に短縮して、初日の会長・幹事部に引きつづいて従前の懇談会が行なわれたことであります。ここに先づ登録委員会より発表された参加人員を記しましょう。

来賓20名 その家族11名

地区内 71R.C. 会員1309名 その家族 426名

地区外 31R.C. 会員 45名 その家族 28名

総計 102 R.C. 1839名という盛会でありました。

なお来賓としてお迎えしましたロータリアンは、ミラー R.I. 会長代理、松本 R.I. 理事をはじめとし、服部第369区ガバナー、難波第368区直前ガバナー、北村直前ガバナー、鳥養、柏原、山岸、秦、空地、森、村上、堀内、神野の各パスト・ガバナー並びに原田次期ガバナー・ノミニーの諸氏でありました。

以下に大会プログラムを中心に筆を進めましょう。

■ 大会第1日 10月2日(土) 白浜会館

定刻 14:00 会場に響き渡るファンファーレとともに、大会は開幕されましたが、本大会におけるロータリー的な最大の感銘は、何と言ってもホッジス R.I. 会長の代理として遙々米国から本大会にご出席されましたチャールズ H. ミラー氏のメッセージでありました。これは、その深い内容とともに、直接本年度の第365区の活動指針ともなるべきものであり、またそれ自体がすばらしいものであるため、欠席を余儀なくされた会員のためにも、その全文を印刷しこの月信に添えることに致しました。

15:30 部門別協議会はそれぞれ会場を異にして開かれ、各部会とも真摯な討議の裡に時間切れを惜みました。

・クラブ奉仕(A)部会

(ロータリー情報、広報、雑誌、職業分類、会員選考)

リーダー (福井北) 坪川 健一氏

・クラブ奉仕(B)部会

(プログラム、出席、親睦、S.A.A.、会報)

リーダー (長 浜) 岡田 孝夫氏

・職業奉仕部会

リーダー (京都南) 北川貞次郎氏

・社会奉仕部会

リーダー (奈 良) 今西清兵衛氏

・国際奉仕部会

リーダー (和歌山東) 吉 田 豊氏

・会長幹事部会

リーダー (大 阪) 塚本 義隆氏

(各部会のカウンセラーその他、記載省略)

この会長幹事部会において特に重要事項の説明があり、ただに会長幹事のみならず、クラブ例会等に於ても充分研究、協力するよう要望されましたので、それらの要点を摘記いたします。なお、これらのR.I.からの公式パンフレットは10月末頃までに届けられる由であります。

さて、毎偶数年に国際大会の一部として規定審議会が開かれますことは既に各位もご承知のことと存じます。明年のメキシコ市での国際大会はこの年にあたります。その際、R.I. 理事会から提出の規定改正案の中でも最も重視されている二つの案は、

(1) ロータリー・クラブ会員規定改正案(68—42)

会員規定を大巾に一本化し、会員の“種類”と言う名称の廃棄も実行しようという理事会の考え方。その理由として、長年に亘って、複雑化して行く会員資格規定、現在の姿は余りにも複雑すぎると指摘しています。また会員は、その職業の本拠地か、その居住地の何れかに基づいて入会出来るという新制度。一つの職業分類に3人まで会員を入会させることが出来るなど。以上のような実に画期的なものであります。

(2) R.I. 年会費の増額案 (68—24)

現行額、半年3弗を、半年4弗に増額する案。その理由として、現行年会費は過去16年間そのまま据え置かれているということ、世界的傾向の物価上昇、ロータリー企画の活潑化等々の事実を述べられ、この懇請には言わずもがなと賛意の拍手が力強く巻きおこりました。

その他、クラブの拡大と会員の増強問題、次年度会長の選任時期を早める勧告、地区年次大会の今後のあり方、日本万国博内ロータリー例会計画の進行状況などにつき説明と質問が熱心に交されました。

小憩後、会長幹事懇談会が引き続きその場所で行なわれ、R.I. 会長代理ミラー氏、ガバナー、全バスト・ガバナーも同席、北村直前ガバナーがリーダーをつとめられ、大会第2日決議委員会（委員長京都R.C. 森下弘氏）より提出される6つの決議案の審議を行ない、全部異議なく可決された次第でした。

それ以前、部会に参加されない会員並びに家族は日本三大泉都と呼ばれる白浜観光をバスを連ねて回遊され、19:00 本会場、白浜会館に再び全出席者参集、ホスト、コ・ホスト、両R.C.の会員家族の心あたたまる歓待をうけつつ大晩餐会がロータリーの友情と感激のうちにはじめられ、郷土の余興、倍賞千恵子さんの歌謡曲も楽しく、最後に「手に手つないで」を歌い喜び、初日のとばりは静かにおろされて行きました。

■ 大会第2日 10月3日(土) 白浜会館

定刻 9:30 再開、「限りなき道ロータリー」が酒井美智男名ソングリーダー(京都R.C.)によってあざやかな初登場? 次に予定に従って部門別協議会報告が前日のリーダーによってそれぞれ要領よく然かも適確に告げられたあと、決議委員会報告、大拍手のうちに何れも採決されましたが次のような6つの内容でありました。

- 第1号 R.I. 会長代理派遣に対する感謝の件。
- 第2号 ホッジス会長の1967~68年度計画に協力の件。
- 第3号 第365区直前ガバナー北村孝治郎氏に対する感謝の件。
- 第4号 1968~69年度国際ロータリー会長として選挙された東ヶ崎潔氏に対し祝意を表する件。
- 第5号 ホスト・クラブ及び協力団体に対する感謝の件。
- 第6号 Guide to Classification に関する件。

続いて資格審査委員会報告(和歌山R.C.藤沢元雄委員長)登録委員会報告(田辺R.C.長井利一良委員長)——前記——をうけた後、特別講演として京大名誉教授、宮地伝三郎理博の「本能と文化」のお話は動物生態学の研究に生涯捧げられた碩学のご講演だけあって、平明なお話の中にも人間社会の基本的理解に資するところ極めて多く多大

の興味と感銘を与えられました。

午後、選挙委員会報告が山口善造委員長(大津R.C.)よりなされ——別掲記事参照——1968~69年度の第365区ガバナー・ノミネーにご就任された原田秀雄氏の謙虚なお態度のうちにも眉宇に決意のほどを深く示されたご挨拶は万雷の拍子呼び、その感激は垣塙にたぎるひと時でありました。

暫くして、会場がもとの静けさをとり戻した時、今は亡き今村、岡島バスト・ガバナーの外32名の物故会員に対し静かに敬虔な黙祷を捧げ心からご冥福をお祈り申したのであります。

次にロータリー財団奨学生の挨拶に移り、

アンドリュース・デンプスター君

(英国—大阪R.C.)

滝本正彦君(京都東R.C.—英国)

の両君が、また交換グループ研究生の挨拶を

佐山和夫君(田辺R.C.—米国)が、

またインターアクト・クラブの挨拶は当地区として第3番目に生れた榎原学院高等学校のI.A.C.会長の速見博君が若者らしい力強い決意と今後の抱負と希望を述べ出席者全員から拍手の嵐の激励をうけて降壇、恒例の出席優秀クラブの表彰がこれにつづき、第一位 和泉R.C. 100% 第二位 舞鶴R.C. 100% 第三位 鯖江R.C. 100% 第四位 大和高田R.C. 第五位 近江八幡R.C. 第六位 和歌山東R.C. 第七位 橋本R.C. 第八位 五条R.C. 第九位 枚方R.C. 第十位 茨木R.C.。同率の場合、会員数の多いクラブを優先との掟が適用されたのも嬉しい話題。

プログラムはパンクチャルに進んだ 14:00, R.I. 会長代理へは超小型トランジスター・テレビ、同夫人へはこの地産の美しい真珠の首飾が記念品として贈呈され、北村直前ガバナーへは目録を贈り、深く感謝の意を表するとともにその労に敬意を捧げた次第でした。

ポピュラーソング「我は海の子」の合唱に一息を入れたあと、待望のパネル討議は、奥村竜三氏(大阪北)がそのリーダーにつき、パネラーは奈良常五郎氏(大阪)、オーチス・ケリー氏(京都)、田口敏三氏(近江八幡)、テーマは〈国際親善とロータリーの役割〉、それぞれ経験深いリーダー、パネラーによつての活潑な展開は実に内容豊富で、示唆されるところが非常に多く、時に爆笑もおこ

り、興味と感銘を与えた時宜をえた企画と賞讃しきり。

いよいよ終幕も近く感ぜられる 15:15

ミラー会長代理は演壇にその巨軀を進めてご登壇、感想を実に堂々と、主として明年メキシコ大会に提出される議案を中心にR.I.会長と理事会の決意のほどを披瀝され、諸君の全面的な理解ある支持を与えられんことを祈ると。なおロータリーの前進途上においてこれらは非常に重要な一段階を画するものであると言っても敢て過言ではないと力説されたあと、この第365区の地区大会に惜みなき讃辞を贈ると結ばれました。

次に参加クラブ代表として最遠隔地の勝山クラブが選ばれ、ホスト・クラブ、コ・ホスト・クラブ並びに開催地への感謝の挨拶、また記念寄附の動議もあり異議なく可決。次期大会開催地の大阪南クラブ代表がホスト・クラブとしての抱負と決意を述べられ、来年の開催期日は10月19～20日、会場は大阪フェスティバル・ホールとの予定の旨の報告と挨拶をされ万雷の拍手のうちに降壇されました。

以上、不備ながらも書き連ねましたが紙面に余裕も最早ありません。あの純粋な童心と美しいハーモニーの三校のコーラス、あの小旗を打ち振り心から歓送して下さった幼い元気な若者たちのあのフィナーレの閉幕はいまだに脳裏を去来、絶讃激励の言葉を述べたい私の胸中ですが……

最後に、例年のこととはもうせ、今回の地区大会でもホストたる田辺クラブ、コ・ホストたる白浜クラブの御尽力は筆舌につくし難いものでありましたが、ここに謹んで第365区の会員一同とともに心から厚く御礼を申し上げます。真にありがとうございました。

地区大会における ガバナー・アドレス

本日ここに国際ロータリー会長代理 Charles H. Miller 御夫妻をはじめ、各位のご参列を得て、国際ロータリー第365区の年次大会を開催することは、まことに御同慶の至りに存じます。

今日ほど私はロータリアンの喜びと誇りとを感ずることはありません。我々はみな奉仕の理想に生きるロータリアンであります。ロータリー創立



以来正に62年、今やロータリーは世界の137カ国622,000余人に及び、人種、宗教、国境などを越えて、世界の隅々にまで拡がりつつあります。本日ここにお集りのロータリアンは凡そ1360人、その御家族を合すれば凡そ1850人であります。30数億という世界人口、1億という日本人口から考えれば、まだロータリアンの数は決して多いとは言われませんが、しかし、ロータリーが歩いた僅か62年の歴史から考えれば、確かに驚歎すべき数であり、我々ロータリアンはこの素晴らしい歴史の足跡に鑑みて、更にロータリーの増強に努めねばなりません。

諸君、私は諸君と共に、天を仰いで今日のこの幸福に心から感謝いたしたいと存じます。考えれば考えるほど、感謝すべきことは余りにも多いのでありますが、今日は五つの幸福を指摘するに止めましょう。五つの幸福とは、第一に人間たるの幸福、第二に健康たる幸福、第三に職業に成果を持つ幸福、第四に家庭の理解を持つ幸福、第五にロータリアンたるの幸福であります。

第一の人間たる幸福などは一見余りにも平凡に思えるかも知れません。しかし、十数億年の生命の流れの中で、その頂点たる人間に生れて来たということほど、偉大な奇蹟がどこにありましようか。我々はこの偉大な奇蹟に慣れ過ぎているのでありますが、この奇蹟は今日の最高最新の科学を以てしても、とてもまだ解きあかすなどということの出来ない奇蹟であります。人間は他の動物の如く、ただ環境に動かされて生きるだけではなく、環境に順応しながらも、次元の高い思索と精神生活とによって、たえずよりよき環境、よりよき社会をつくり出そうと努力しているのであり、ロータリー活動も正に素晴らしいそういう努力の一つで

あります。十数億年の生命の歴史の中で、直立猿人の出現からは約50万年、現代の人間、Homo sapiens が出現してからは約5万年、人間がやや正確な記録的歴史を持つようになってからは、約5千年、文芸復興期からは約5百年前後に過ぎないのでありまして、人類の将来にはなお洋々たる前途があると言われましょう。

第二に健康たるの幸福であります、元気であればこそ、今日のこの地区大会にも出席ができたのであります。これも一見平凡のようですが、決して平凡どころではなく、考えれば考える程、不思議なことでもあります。肺も心臓も、我々の知らぬ間に、働いているのであり、胃腸も肝臓もそうであります。いわば我々は、こうした内臓の奉仕によって生きておるのであります。一見自分の工夫で生きているようではありますが、こうした内臓の働きは生れた時、そのまま大自然から我々人間に与えられているのでありまして、決して自分で特に工夫をして心臓を動かしたり、肺を動かしたりしているではありません。知らぬ間に働く内臓の奉仕のおかげで生きているのでありまして、そういう意味では生きるということは、実は、生かされて生きるとも言わねばならぬかと存じます。

奉仕の理想に生きる我々ロータリアンが、実は内臓の奉仕によって生かされて生きているということは、まことに面白いことでもあります。しかし人間としてはこの肉体的な生命だけでは駄目なのでありまして、この第一生命の上に、特に人間に与えられた第二の生命たる高い精神的生命を充実してこそ、始めて人間としてのつとめを果したとも言われるのであります。考えて見ると、奉仕の理想に生きるロータリアンの生活は、それ自体人間に与えられた最も尊い仕事の一つのように思われます。

第三の幸福は、諸君が、それぞれの職業に成功され、繁昌されている幸福であります。もとより諸君のお仕事はいろいろで、必ずしも十分に満足したり、安心したり出来ない方もあるかも知れませんが、それにしても、この大会に出席できる余裕をお持ちになるということは、そのこと自体大いに謝すべきこととございましょう。二本の脚があっても不平をいう人もあり、片脚でも、いや脚がなくても感謝をしている人もあります。目が見

えても不平をいう人があり、目が見えなくとも感謝している人もあります。それは心の深さの問題ではないでしょうか。

第四の幸福は、よきロータリアンたるには、どうしても家庭の理解と協力が必要かと存じますが、うっかりすると忘れ易いこういう幸福にも深く感謝したいものであります。わけても今日お元気なご夫人やお子さんたちとご一緒に出席のロータリアン諸君には、私は心からの祝福と御礼とを申しあげたいと存じます。言うまでもなく共同社会は、先ず家庭生活がその出発点であり、奉仕の理想に生きる我々ロータリアンは、よき社会人たる前に先ずよき家庭人になりたいものであり、よき家庭人たらずしては、とてもよき社会人にはなれまいと存じます。しかし、同時によき社会人たるためには家庭の理解も是非望ましいものであり、社会につながる家庭が、ロータリアンその人のみならず、家庭ぐるみでロータリーの奉仕の理想を理解し、協力して戴くことになれば、その家庭そのものの生活が奉仕と感謝の生活となり、家庭の幸福には期して俟つべきものがあると存じます。ロータリーは先ず家庭から、そして家族の一人一人からということになるのではないのでしょうか。

ロータリアン諸君、我々はむずかしいロータリーの規則を説く前に、先ずよき家庭人となるように努めましょう。よき夫、よき父、家庭のすべての人々から愛され、尊敬されるような人間になるように努めましょう。これは決してなまやさしいことではありませんが、祈りのあるところには道があります。御家庭でも我々の気持ちを察して、今後ともますますご協力下さい。

第五の幸福は、現在ロータリアンとして、栄光に輝くロータリーの会員たることであります。ロータリーは御承知の如く、地域における各職業の代表たるべき人を厳重な資格審査を経て、こちらから入会をお願いするのでありまして、普通の会の如く、会費さえ出せば入会出来るものではありません。こうして厳重に選ばれた地域の人々を会員として、各職業を通じて、先ず地域社会に、この地域社会から国家、更には国家を超えて世界社会に、人類全体に奉仕しようというのが、我々ロータリアンの理想であり、生活であります。今こそ、我々は超我の理想を心深く噛みしめ、その実

行に全力を傾倒いたしましょう。

諸君、我々は何たる幸福ものでありましょう。以上あげた五つの幸福は、今ここにいる我々のすべてが持っているのであります。とかく人間はこうした身についた現在の幸福は忘れがちで、充分その幸福を味あおうとしますが、せめてロータリアンはそういう表面的な生活ではなく、もっと静かに、そして深く我々自身を内面から眺めたいと存じます。

ロータリー62年の歴史を通じて、しみじみ感じるものの一つは、理想と現実との調和であります。ロータリーは常に前向きな大きな理想を持ちながら、しっかりと大地に足をつけて前進しつづけて来ましたが、これはロータリーの創設者ポール・ハリスを始めとして、それにつづく偉大な先輩たちのおかげであります。我々は頭を垂れて、こうした偉大な先輩たちの組織力と生命力とに心から敬意と感謝とを捧げましょう。

諸君、しかし、ただ感謝をしたり、よろこんだりするだけではまだ不充分であります。我々はこの感謝と幸福とを実行の裏づけによって、更にロータリーの成長と前進のために捧げねばなりません。ご承知の如く現在 R. I. 第365区はクラブ数71、会員数約4150人です。我々はこの今日までの成長を喜ぶとともに、更に一段と逞しい努力によって、質量両面に亘って、わが第365区のロータリー拡大と成長とに邁進せねばなりません。よき人を選び、よき地域を選んでロータリーの増強をはかるといふことは、ロータリアンが更にロータリー入会によって人間的に成長を遂げ、その地域社会の前進に一段と貢献するという意味において、それはそのまま地域社会の向上と幸福につながることにあります。

諸君、我々は何とかなして、少しづつでもよいから日々成長するように努力いたしましょう。個人として、家庭人として、職業人として、国際人として、世界人として成長したいものであります。しかし、こうした理想は突然達せられるものではなく、着実な今日の生活から始まるのであります。しっかりと足もとの現実を凝視し、大地に足を踏みしめて、今日の生活を生かしましょう。機会があるごとに私が諸君に対し、また私自身に対して叫んで来ましたように、我々はただ口先だけの

ロータリアンではなく、ロータリーをからだにつけてこれを日々の生活の中に実現いたしましょう。

最も危険なのは、かるく文字だけを読んで分かったつもりになることであります。真に分かるということは、実になかなかむずかしいことでありまして、分かるという言葉の中には、(1)分かったつもり、(2)真に分かる、(3)その実行などいろいろの段階がありますが、陽明学などでは、知識が実行によって裏づけされて始めて分かったと言えるのだと説くのであります。なるほど知行合一のこの考え方は誠に深く、ロータリーにおいてもその通りだと思ふのであります。我々はただロータリーを日々の生活の中に生かして、楽しく、しかも稔りの多い生活を送りましょう。

諸君、奉仕を理想とするロータリーの心は不変であります。本年度のホッジス R. I. 会長のメッセージはいかにも具体的に、この理想を表現して余すところがありません。これはホッジス会長のみのり多いロータリアンとしての経験と、ホッジス会長その人の人柄と英知から迸り出したもので、ホッジス会長その人を深く知れば知るほど深い味が出るのであります。ホッジス会長の言われる如く、今こそ我々は、いよいよ覚悟をあらたにし、ロータリー活動に積極的に参加し、各自の職業に成功してその指導力を発揮し、また各自の地域社会や日本に忠誠を捧げてあらゆる機会にそれに奉仕し、更には他国の人々の問題にもよく通じて国際社会の理解と奉仕に献身いたしたいと存じます。ホッジス会長のメッセージの全体として強く感ぜられることは、その逞しい積極性であります。その表現はまことに調和的ではありますが、特に忘れてならぬことはこのホッジス会長の強い積極性であります。去る8月5日京都の国際会館で行き届いたモデレーター神野太郎氏の御指導の下で行なわれたリーダーシップ・フォーラムなどもその現れの一つであります。その趣旨については直接参加された会長、委員長等はもちろん、既にクラブ全体としても検討努力中のことと存じますので、フォーラムの詳細についてはここでは改めて繰り返しません。しかし、クラブの増強、世界社会奉仕等を始め、クラブ活動全般に亘り、本年度は格別の御精進をお願い致します。

たしかにホッジス会長の言葉には、表面の響き

以上に深く、広いものがあります。小さな行きがかりや感情に囚われずに、大きく温かく世界を感じとる世界的センスと世界的善意とがそのうしろにあります。もとより世界的組織たるロータリーの会員は、本質的にはその第一条件としての世界的センスと世界的善意とがあらうかと存じますがこれは口でいうほど簡単ではありません。お互によきロータリアンたるために、何とかして一日も早くこうしたものを身につけて世界的なおとなになりましょう。

本日はこのあとにR.I.会長代理ミラー氏によるR.I.会長メッセージや、部門別協議会、会長幹事懇談会等がありますが、どうぞロータリー活動に関する活潑なご検討を賜わり、それを遅しく第365区の今後の活動に資し得ればまことにしあわせに存じます。ありがとうございました。

○ ミラー御夫妻お元気に離洛

当地区年次大会に、その使命を無事はたされたミラーR.I.会長御夫妻は、大会終了直後、R.I.理事松本兼二郎氏と共に、紀北の国道24号線を一路奈良へと疾駆され同夜奈良ホテルに御一泊。翌日法隆寺、東大寺などの古寺、古蹟を歴訪されたあと夕刻ご入洛。都ホテル到着後、暫しガバナー事務所に憩われた後、同ホテルにご投宿。京都ご滞在中は表千家家元をはじめとし、それぞれロータリー経営の陶芸、美術、七宝等の家々を訪問、また洛北、洛西の秋色をも暫し観賞され、夜は夜とて、京都市の5R.C.共催による東山「土井」での歓迎晩餐会にご出席、最後の10月6日はたまたまご宿泊の都ホテルに例会場をもつ京都東 R.C.の例会日が金曜日と気づかれ突如ご予定を変更、松本理事と共に例会出席、15:18この長期ご多忙の日程にも少しの疲労をしめされず、お元気そのもののお姿で新幹線にご乗車、離洛東上されました。

○ 原田秀雄氏次年度ガバナー・ノミニーに決定

既に北村直前ガバナー月信第12号にてご高承の通り、R.I.細則第12条第5節(ハ)に基き、大阪北R.C.会員、原田秀雄氏が1968～69年度第365区ガバナー被指名者たることを宣言されていましたが、その後選挙をまたずして合法的に決定いたしました。

就ては、過日地区大会に於て同氏を正式に1968～69年度第365区ガバナー・ノミニーたることを確認するとともに、同氏より就任のご挨拶をいただきました。また同時にメキシコ市における本年度の国際大会規定審議会への当地代表の選出についても同氏への懇請がなされ、これまた同氏のご承諾を得て決定いたしましたことは当地区として実にその人を得たことでご同慶に堪えません。



原田秀雄氏略歴

生年月日	明治37年2月6日
本籍	東京都港区南青山6-12
現住所	神戸市東灘区住吉町池床
学歴	大正15年3月 東京帝国大学工学部卒業
職歴	大正15年4月 海軍技術研究所入所
	昭和3年3月 同所退所
	昭和3年3月 株式会社大阪鉄工所(現日立造船)入社
	同 11年7日 同社退社
	同 11年7月 大阪帝国大学助教授に就任
	同 17年3月 同教授に就任
	同 29年6月 同工学部長に就任
	同 32年6月 同工学部長を退任
	同 42年4月 教授退官に伴い名誉教授に就任
	同 34～40年 関西造船協会々長
	同 38～40年 社団法人造船協会々長
ロータリー歴	昭和27年12月 大阪北 R.C. 創立会員
	同31年7月 大阪北R.C.会長に就任
	同40年1月 大阪北R.C.シニア・アクティブ会員に編入、今日に至る

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 6 November 15. 1967

ガバナー月信 第6信 (昭和42年11月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

奉 仕 と 理 解

紅葉も日ごとに深まる季節になりました。ますますロータリーに御精進のことと存じます。私もガバナー公式訪問その他で忙しい日々を送っております。いろいろの事を考えさせられ、教えられしながら、今更ながらロータリー生活の深さと広さに驚いております。

この頃しみじみ感じていることは、ロータリーが理想とする奉仕ということも、ただ善意や意欲だけで正しく出来るものではなく、それにはどうしても正しい理解が必要だということです。それは四大奉仕部門のどれについても言われることです。実行の前に、この正しい理解がないと、その行事はただ形式的になって、最も大切な精神が失われ、何のために時間と金とを費しているのかさえ、はっきりしないようなことにもなりかねないのです。

話を具体的にするために、たとえば、社会奉仕を一つ例にとってみましょう。社会奉仕には身体障害児、都市安全、文物保存、文化活動、奨学生表彰、学生招待、青少年問題、インターアクト、高齢者への奉仕等、いろいろ様々の面がありますが、これ等をただ機械的、事務的に行ったのでは、各地域における重要問題を重点的、効果的に遂行することが出来なくなる恐れさえあり、それには社会奉仕の理念をしっかりと掴み、それに従って先ず各地域の実状を入念に調査して、充分地域の実状に通じ、その上で適当な選択が行われねばなりません。しかし、実際に公式訪問をして見ると必ずしも、そういう風に行われてはならず、どうも今までの例とか、隣のクラブに右へならえという式にやっているようなところも少くないようです。

いわゆる社会奉仕は、各ロータリアンがその地域社会に決して無関心でおるといふようなことがなく、社会の一員として社会に対して積極的な関心と愛情とを持ち、社会をよりよくし、幸福と不幸とを分かちあうために奉仕をしようといふことで、この趣旨を十分に理解せずに、事務的に事を運んで真に本来の意味を生かすことが出来ないものでありましょう。もっと端的に言うなら、社会奉仕はロータリアンが中心となって地域における社会生活全体によい雰囲気を与え、ただロータリアンのみならず、地域の住民全体に、よき町づくり、よき村づくりの積極的意欲が生れるようにすることでしょう。従って奉仕は、ただに上にあげたような問題のみならず、往来にも、電車の中にも、公園にも、学校にも、地域の全生活面にあるわけであり、すべてのロータリアンの生活に正しい社会奉仕の理想が充実しておれば、どこにも社会奉仕の機会はあると思われまふ。

奉仕には正しい理解が先行すると言いましたが、これは普通考えられているよりは、はるかに重要なことで、もっと関心が払われねばなりません。実際問題としては忙しいロータリアンのすべてに望むことは無理かも知れませんが、しかし、真に地域社会に対する愛情を考えれば、その正しい理解には、ただ表面的理解だけではなく、各地域にはそれぞれ特殊の事情があることだから、クラブとして、地域の歴史、地理、行政、経済、教育、文化等々、そのあらゆる面についての知識や伝統を知ることが望ましく、更にその上に過去に対する理解だけではなく、世界的視野に立って現在と将来を考える広いセンスと高い見識が望ましいと存じます。ロータリアンが地域社会に足を踏みしめながら、同時に常に全世界に思いをはせているといふことは、そういうことでありましょう。困難ではありますが、ロータリーの意義と各ロータリアンの人間的生長がそこにあります。ロータリアンはよき地域社会の人たるのみならず、よき世界人でなければなりません。

地域社会の問題を具体的にとりあげるにしても、各ロータリアンの、そして各クラブの世界並びに地域社会に対するセンスの広さと識見の高さの如何は、直接問題選択の視野と方向に影響を与えます。われわれは、もっともっと深く広く、しかも一方的に偏せず、各自の地域社会を眺める習慣と意欲を持たねばなりません。単に形式的のものとならず、真にその目的を達するようにしたいものであります。

以上は社会奉仕を一例として奉仕と理解との関係について述べましたが、ここで一般的に強調したいことは、正しい奉仕は、ただ善意や意欲だけで出来るものではなく、それには先ず問題の正しい理解が必要であり、しかもこの正しい理解はただに頭脳の明い如何のみの問題ではなく、視野の高さやセンスの広さなどにもかかるといふことを強調したいと思ひます。即ち正しい奉仕には善意と意欲、それに正しい理解やセンスなど、一言にして言えばやはりロータリアンの人間全体が関係することになります。ですから正しくロータリーの奉仕生活をするためにも、本当に世界的のおとなになりたいものです。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 7 December 15, 1967

ガバナー月信 第7信 (昭和42年12月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

歳末にあたって

——ロータリー年度前半の終りに——

あっというまに、今年も年の暮になりました。今年には私にとっては、まことに忙しい年で、4月末から5月始めにかけてのレーク・ブラシッドにおけるロータリーの国際協議会、6月下旬におけるニスでの国際大会、6月24日の京都の国際会議場における第365区の地区協議会と8月5日の地区リーダーシップ・フォーラム、10月2日、3日の白浜における地区大会、更に第1組から第8組にわたるインターンティ・ゼネラル・フォーラムと地区内クラブのガバナー公式訪問など、主なものを拾って見ても、盛り沢山の行事がありました。

そのどれを取って見ても、やはりそれぞれの思い出と反省があり、それだけ学ぶところも、おそわるところも多うございました。

中でも、ガバナー・ノミニーとしてのレーク・ブラシッドに於ける印象は最も強烈なものの一つでありました。私はここで印刷物などからはとても学ぶことの出来ない生きた国際ロータリーの姿に接し、ガバナー・ノミニーとしての心構えを新たにしました。私はここで国際ロータリーがたしかに生きているという実感を体得しました。ロータリーの拡大については、私はそれまで質に重点をおいたやや固い考え方を持っていましたが、この生きた国際ロータリーの姿に接して、質の重要性についての根本的な考えは変わらないにしても、同時に数の重要性について新たに強い印象を受け、文字で表現すれば平凡極まることながら、ロータリーの拡大はやはり、質と数の両面で行かねばならぬということ、強く強く感じました。

たしかに停止するところには退歩が始まるのであります。たえず前進を進めながら、質の向上を考えねばなりません。職業に基盤を持ち奉仕を理想とするロータリーは、決して狭義の教育組織ではありませんが、しかし、エバンス前会長が「ロータリーを通じてよりよき世界を」と提唱されている如く、それは奉仕を通じてよりよき世界を目指すものであり、そうだとすれば地域社会から出来る限り多くの職業代表者を集めて、これを立派なロータリアンに育て上げることは、そのまま地域社会の改善にもつながることになり、また全世界的の組織たる国際ロータリーとしては、そのまま世界社会の向上にもつながるのであります。レーク・ブラッドでやや固い閉じた従来の私の考え方は、もっとあかるい前向きな開いた考え方へ変わったのであります。これは豹変と言えれば豹変であります、私にとっては少しの無理や、わざとらしさはないのであります。

もとより数の重要性についての私の新しい認識は、既にふれたように、会員の質を無視してよいなどということではなく、14段階を経ての慎重の会員選考は、今でもむしろ厳しくしても軽くすべきではないと思っております。だからロータリーの拡大は、それが内的であっても、外的であっても、ロータリー・クラブの増強をというクラブ全体の熱意と努力によるほかはなく、粗末なものでもよいというのではなく、野に遺賢なからしめる、という考え方で、あくまでよきものを、かくれたよきものを一人残らず探し出すということでありましょう。こうして探し出されたよきものは、ロータリー入会によって更に一段と向上し、生長するはずであります。そう考えるとロータリーの拡大は先ず地域社会の、そしてひいては世界社会の改善につながるることになり、ここに大きな社会的意義があることになります。各ロータリー・クラブではこの辺のことは十分に了解しておられることと思いますが、以上のような意味で、クラブの拡大には更に格別の御努力を得たいと存じます。

ニースのロータリーの国際大会で最も印象的なのは、文字通り世界の各地から人種や宗教や言語を異にする多数の会員とその家族たちが集まったということ、更にそれにもまして忘れ難い思い出は、こうした人々の表情がいかにも明るく朗らかで、しかもかつては一面識もなかった人たちが一度会えばたちまち十年の知己の如く楽しく、心を許して語りあっている姿であります。ここにはたしかにロータリアンの顔があり、表情があります。恐らくこの顔と表情こそは、最も端的なロータリーの表現で、たしかに人種や宗教や言語を異にしても人類にはこうした社会があるのであり、具体的に之を実現し、世界にこれを示しつつあるということは、ロータリーの大きな功積の一つでありましょう。国際ロータリーの会長ノミニー東ヶ崎 潔氏、理事の松本兼次郎氏の国際大会の壇上における姿もまことにりりしく、われわれ日本人にはただロータリーにとってだけではなく、何か日本に大きな明日が暗示されているようで、まことに嬉しく感じました。

地区協議会、リーダーシップ・フォーラム、地区大会などについてのことは、何れもその都度報告しておりますので特にここに触れませんが、しかし、ガバナーとして感謝に堪えないのは、その都度関係者の気持ちよい協力と友情とを得たことでございます。滑らかに進められた会の楽屋裏の話を聞きますと、全く涙の出るようなことが数々ございます。

本年度のインターシティ・ゼネラル・フォーラム(I.C.G.F.)は8組に分けられて開かれましたが、去る11月2日、緒方パスト・ガバナーをゼネラル・リーダーとし、和歌山南クラブをホストとするもので全部終了いたしました。I.C.G.F.については、どうも毎年あまりかわりばえがないとか、形式的とか、マンネリズムに陥っているとか、など色々批判もあり、たしかに之等の批判の中には大いに聞くべきものもありますが、しかし和歌山南のI.C.G.F.などはなかなか活発で、内容も豊富でありました。要は参加各位の熱意と勉強と工夫とによるものでありましょう。過日の地区パスト・ガバナー、ガバナー・ノミニー各位との打合せ会では、明年度は8組ではやや人数等に無理も起るので10組とし、且つ参加者の時間の都合その他をも考慮して多少組み合わせをかえようということであり、そういうことになりましょう。

現在行われているI.C.G.F.の型は大體国際ロータリーの指示によって定められたものであります、かなりクラブの経験も多くなったことでありますから、こちらでもっと独創的工夫をこらしたらよいと

思いますが、各クラブでもよく考えて戴きたいと思えます。

ガバナー公式訪問は本年内に約60クラブを終了出来ますが、残ったクラブは明年2月中には全部終了したいと思えます。国際ロータリーでは原則的には年度の前半に公式訪問をすませるようにとのことですが、本地区の如く多くのロータリー・クラブを有する地区ではそれも困難なので明年2月中にとしておるのであります。公式訪問、I.C.G.F.で感ずることは、一応どのクラブもよく準備され、まじめに研究をしておられますが、どうも耳学問が多くて、手続要覧やその他の文献を読んでおられることが少いということでもあります。従って形式的なことや、行事は習慣的に一応は心得ていても、ロータリーの綱領とか、定款細則など基本的なものの本質的理解が浅いということでもあります。ロータリーを正しく理解することは楽しくロータリーに参加するという意味からも重要なことで、自ら読書し、更にフォーラムとか、炉辺会合などを通じて意見を交換しあつて、是非基本的な理解は身につけて戴きとうございます。

手続要覧などはあるいは、始めは一人だけで読んだのでは、取りつきにくく、また分かりにくいというようなこともあるかと思えますが、それなら何人か組みとなり、経験の深い人をリーダーとして勉強するような方法もあるかと思われまふ。しかし、何れにせよ、自ら学びとろうという心構えなくしては真の理解は不可能でありまふ。それは既に孔子も「学んで思わざれば則ち罔(くら)く、思うて学ばざれば則ち殆(あやう)し」というておる如く、学んでは更に自ら深く考えて見なければ本当には分らず、こんなことぐらいだろうと思って学ぶべきところを学ばずに、独りよがりではあふないのであります。

ちょうど年もいよいよ改まることでもありますから、われわれロータリアンも更に心を新たにして、来年は更にロータリアンとしても一段と生きたいものでもあります。真に生長するものには暦年などはないかも知れませんが、しかし、われわれ凡人にはたえず平均に直線的に生長するということはむずかしく、正月とか誕生日とかいうものを生かして、その度毎に覚悟を新にしながら生長することが實際的のようであります。

ロータリーの世界は奉仕の世界であり、楽しみの世界であり、光の世界であります。佐々木信綱さんは正月を歌って「春ここに 生まる朝の 日をうけて 山河草木 みな光あり」とよんでおられますが、われわれもまたそんな心境になりたいものです。

年を送るにあたり、心から会長、幹事はじめ、会員各位の友情に感謝し、更に会員各位に新しいよい年をお祈り申し上げます。

—12月4日 公式訪問中の旅舎にて—

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 8 January 15, 1968

ガバナー月信 第8信 (昭和43年1月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

山河微笑の一年に

— 1968年を迎えるに当って —



新年おめでとうございます。今年こそ山河微笑の年とし、奉仕徹底の年と致したいと念じますが、その根元は深い思索だろうと存じます。先ず今日のわれわれの生活の中にある限りない幸福を知り、心深くそれを味わい、それに感謝いたしましょう。

われわれ人間の生命にはたしかに限りがありますが、その有限の人間に殆んど無限の可能性が与えられているのです。何たる不思議のことでしょう。もとより人間には、誰しも多少は困ることや、不服のこともあります。それも考えようで、実は一見不幸のような事のなかにさえ、深く考える目には幸福が見出されるのです。普通誰も痛みなどには感謝をしません。これとても実は危険に対する警報で、これあるがためにたいていの危険は破局的な大事にならぬうちに処理されるのです。孟子は「人は

憂患に生き、安楽に死す」などと言っておりますが、意味深重であります。一病息災などということも、なかなか味のある言葉で、まるで病気を知らぬような人間よりも、一つぐらいは病気のある方がからだを大切にするので、かえって丈夫にもなり、長生きもするというような意味でしょうが、これは肉体についてだけではなく、精神的にもそうだと思います。充分意志の強い人には、自らの欠点を知ることは決して弱さではなく、むしろそれによってどこまでも生長し得る長所ともなり得るのです。

人間は生物の中では最も若く、まだ生れてから5万年前後にすぎないのです。しかし、近頃のように、人間の機械化とか、分裂とか、あるいは人間の疎外とか、ノイローゼとかいうことを聞くと、僅かこの数万年の間に人間はもう若年寄りになったり、疲れたりしたのではないかと疑われもします。しかし、人間に与えられた無限の可能性、いかなる天才と雖も未だ使えつくしてはいない無数の脳細胞などを思うと、決して人間はこんなところで長く停滞したり、疲労状態で終るようなことはなく、必ず精神的余裕を回復して、現在のわれわれには想像も出来ないような人間生活を生み出すでしょう。残念ながら人間は今のところ個人的生活もさることながら、社会、国家、世界という風に大きな集団になればなるほど野暮になっていますが、まことに悲しいことで、一日も早く互に殺しあう戦争などという動物的状态を脱せねばなりません。しかし、そういう中で、ロータリーのよう年ごとに伸びている国際的な奉仕組織があることは、何ともしもうれしいことで、人類の明日に大きな希望を与えてくれます。

元来生きるとは、まず第一に生かされることであります。心臓にせよ、肺臓にせよ、どの内臓一つも自ら工夫をして動かしているのではなく、生命とともに直接には父母から授かったものですが、父母はまたその父母からという風に大自然から授かったものであります。そんな風に生きるということが先ず生かされるということだとわかりますと、われわれも何とか世を生かし、人を生かしたい気持ちになります。これは別の言葉で現せば、ロータリーの奉仕にほかなりません。しかし、生きることが、先ず生かされるということになりますと、この奉仕は、ロータリーのいうクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕というだけではなく、もっと根元的なもの、たとえば大自然に対する奉仕などもあるようで、われわれは地球にも、太陽にも、全宇宙にも、さらにはまた、ただ一粒の砂にも手を合わせて奉仕をしたいような気になります。

今日こうして生きておること自体が、既にただごとではなく、そこには自己の力だけではどうにもならない数々の力が働いているのです。五体整ったすこやかな人間として生れて来たこと、今日元気で働いていること、親兄弟揃った平和な家庭——そんな平凡なことと言う人もあるかも知れませんが、それは見方が浅いので、平凡どころか、この平凡は少し深く考える頭には目を見はるような奇蹟中の奇蹟なのです。われわれはこの幸福の一つ一つを深く味わい、それに深く感謝いたしましょう。真にこれが分れば、おのずから手を合わさずにはおれない気持ちになります。しかし、こういう気持ちは、ただのもの知りとか、知識の集合のみからは生れるものではなく、静かに深く人生を味わい、人生を考えなくては出ないものであります。世の中には辞書の如く何でも知っておりながら、さっぱり味のない人もありますが、できれば味は深いほど望ましいことです。

不思議なもので、こういう人間の味は、自然に表情などにも現われて来ます。昔から「顔は心の窓」などと言われる如く、たしかに顔は裸で、これほど心のようすを、そのものずばりと表わすものはあります。これは世間でいう美醜などとは本質的に異なり、どんなに上手につくり笑をしても、数分話をしておれば、とても自然の表情をかくすことは出来ないのです。深く知ることは、必ず自己の力の限界を教えてくれ、今日無事に生きること自体の中に既に己を超えた無限の力があることを教えてくれ、おのずから感謝への道へ導いてくれます。そしてこうした感謝の心を知り、感謝の心で働くようになれば、必ずそれはまた表情にも現れるようになり、ゆたかな顔にもなります。「四十以上は自分の顔に責任をもて」などと言われるのも、このことは尤もなことだと思います。この心の美がなくては、どんなにいわゆる美しい顔でも何か物たらぬ気が致しますが、反対に心の美があれば普通の意味ではそれほど美しい顔でなくとも、年とともに次第に魅力的なものを具えるようになります。この心の美は、

そこからの化粧では与えられぬもので、化粧の最後のきわめてとなるこの美は、自らの力で心の内側から養うほかはありません。

人間として幸福に暮らすに最も大切なことは、深く考えるということではないでしょうか。幸福は心の状態であります。どの道、どの職業にせよ、真に最善を尽して働くとき、必ずそこには部分的な知識を超えた、もっと総合的な智慧は生れて来ます。この総合的な智慧はなかなかうまく表現できませんが、分かって見れば一見案外平凡のこともあるようでございます。しかし、わかったようなつもりで、ただ機械的に人のあとを真似ごとで歩いていくだけでは、この平凡さも実は分からぬので、人の真似だけの平凡さと、自らの汗でかち取った平凡さとは大きな開きがあり、自らの汗で得た平凡は実はもうただの平凡ではなく、この平凡には古今の大道が含まれているのです。やっぱり平凡一つを身につけるには、ほんものを身につけるのは容易ではないようです。私はやっとこの頃、こんなありふれた事をしみじみと感じるようになりました。恥ずかしいと言えば恥ずかしいことですが、しかし、一生気がつかないよりも、少しはましかなあ、などと自らを慰めております。若い日、すねかじりで楽に学校を出たような者には、自分ではひと通り人生がわかっているように思っても、なかなかそうばかりとは申されませんが、私もその一人で、せめてこれからでも、限りない広さと深さを持つこの人の世を、且つ学び、且つ楽しみたいと念じています。

真に一つの道、一つの職に命を捧げた者には、究めても究めても限りがなく、むしろ出来ることよりも出来ないことが多く、また分かることよりも分からぬことが多いということが、本当に分かります。「最もよく知るものこそ、真にいかにか知ることが少いかということを知るものだ」というようなことを言えますが、この言葉の意味も、そういうことを言っておるものだと思えます。

一見これは淋しそうですが、しかし、真に知らぬということを知ることは、決して淋しいことではなく、むしろ内側からたえず未知の世界へ向っての力と希望とを与えてくれます。それほどあらゆるもの、あらゆることは深く、広く、一粒の砂の秘密さえも、その最後の構造にはまだ不明の点があるのです。究めても究めても分からぬところがあるのみならず、むしろ究めれば究めるほど分からぬところが多くなるとは、何という不思議でしょう。分からぬと言えば、小は原子核から大は宇宙の問題に至るまで分からぬことばかりですが、どうして自然にはそれほどの不思議が充ち溢れているのでしょうか。人は簡単に当り前とか、平凡とか言えますが、決して世の中にそんなものはなく、見える目にはみんな神秘そのものであります。

山河慟哭とか、山河微笑などという言葉がありますが、同じ山河も自然もこちらの気持ちで変るということは面白いことです。同じ世界に住んでも毎日つまらぬことに一喜一憂して生きることと、いわゆる平凡の中にも大自然の神秘を感じて悠然と生きることとは、一生にしたら大変な違いになりましょう。自分の顔は自分のもので、同時に社会のものであり、こちらが笑えば相手も笑え、こちらがおこれば相手もおこります。おこられても、どなられても、われわれはやはりほほえみの人生を送りましょう。

地球は狭くなりつつありますが、それでもまだ充分広く、同じ正月でも、冬もあれば夏もあり、また冬とか夏とか言っても所によって、それぞれまた持ち味があります。昨年レーク・ブラシッドの国際アッセンブリーで、国際ロータリーでは手紙に時候の挨拶は書かぬことにしている、と聞いて、私は一瞬大きな暗示を受けました。パライティがあるということは、面白いことです。色とりどりのパライティに彩られて、ロータリーはますます楽しく味のあるものになりましょう。われわれロータリアンもいよいよ広い心、深い心になりましょう。一切のものに愛と友情を捧げて、ことしは山河微笑の一年とし、奉仕徹底の一年といたしましょう。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 9 February 15, 1968

ガバナー月信 第9信 (昭和43年2月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

4つのテストについて

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

凡そロータリアンなら、誰でもこの4つのテストの文句は知っているでしょう。しかし、文句を知っているということと、真の意味をしっかりと理解して、日々の生活に生かしていることとは、必ずしも一致はしません。

最初この4つのテストを読んだ時、実は私もそれ程の感動を受けず、極めて常識的のことだと思っただけであります。しかし、後でこの4つのテストが生れたハーバート・J・ティラー氏の物語りを読み、この言葉の意味を深く考えて自らの行動を之に照らして見るに及んで、私は次第にこの4つのテストのすばらしさに驚歎するに至りました。

周知の如く、この4つのテストは単なる言葉ではなく、これによってティラー氏がつぶれかかった会社を完全にたて直したもので、この言葉にはティラー氏の血がかよい、ちよっと見るとさほどにも思われぬが、実は人生に対するまじめさときびしさに貫かれているのであります。

1. 「真実かどうか」。最初私はこれくらいにはよい点をとれるように思いましたが、公私の生活を深く考えるとどうもむずかしいようであります。正直ということは、子供の時から教えこまれ、特に尊敬する中学の中山校長先生の話は、身にやきつけられています。正直についての先生の話はもう50年以上も

前のことですが、つい昨日のことにように鮮かに思い出されます。ある時先生は穴うめの授業に来て言われました。「ほんとうに正直で生き抜くということは、大変なことである。私も一生懸命に決して嘘は言うまいと努力して来たが、どうもそうばかりは行かなかった。しかし、これからも頑ぼうと思っている。むずかしいが、やはり正直がいい。一緒に頑ぼうではないか」。いろいろ面白い例をあげて深く自省しながらのお話しは強くわれわれ生徒たちの心をうちました。今でも中学の友達にあって、よくこの時の話が出るのです。残念ながら日本の社会には、今でもまだ嘘が少なくありません。例えば予算の作製などについて見ても、日本ではまだ一般に多少はかけひきや嘘があるものの如く考えられ、たとえ正直に出しても始んど常にくらは削減されるというような状態で、いきおいそれを見込んで、ある程度のかけひきがあるというようになり易いのであります。よく「うそも方便」などと言われますが、考えて見ると恐ろしいことでもあります。日本ではまだ公私すべての面で、文字通り真実に生きる、ということにはなお多くの困難があるようですが、しかし、社会の先瑞を理想を以て歩こうというロータリアンは、こういう点でも社会の模範になりたいものであります。

2. 「みんなに公平か」 Fair という訳については、公平とか、公正とか、いろいろ議論があるようですが、そんなことよりも、もっと本質的に Fair ということを深く考え、それを実行する方が、遙かに大切であります。Fair とは公明正大で、かけひきやえこひいきがなく、気持よくことを運ぶことで、Fair Play の Fair であります。たとえば競走しながらも競走相手が走り易いように気をくばるというようなことですが、これは余程心の美しさとゆとりとがないと出来ません。だが、ここまで考えて生きてこそ、始めて真のロータリアンであり、むずかしいですが、努めてそういうものになりたいものであります。

3. 「好意と友情を深めるか」。これになると更にむずかしいございます。たとえばある問題を上手に処理しても、その結果相手の好意と友情とを得ることが出来なければ、この第3項には及第できないのであります。日本流に考えれば、たとえば、社長がある困難な問題を解決すれば、それだけでたいしたものだ、とほめられるかも知れませんが、この「好意と友情を深めるか」という4つのテストの第3項にかけて見て、ほんとうにそうでなければ、まだこれに及第とは言われぬこととなります。ここまで考えると、これに及第することはなかなか容易ならぬことでもあります。

4. 「みんなのためになるかどうか」。この第4項も、よく考えると大変なことで、問題の処理を、それに関係するすべての人々にとって都合がよく、利益をもたらすようにするということは、余程当事者の間に公平な判断と深い思慮がなくは出来ぬことでもあります。4つのテストの第3項と第4項とは、社会全般にひがみや偏狭さがとぐろを巻いてはととも出来ず、どうしてもその前提として、社会に話し合えばわかる良識と判断とが必要であります。たとえば労資間の問題などにしても、その両方に相手を信頼し、相手の立場を理解しようという教養と理解がなければうまくは行きますまい。適当と思われる要求を出すのはむしろ望ましいことですが、しかし、これはあくまでも両者の話しあいによって決められるべきで、要求を出したが最後、後は真の話し合いらしい話し合いも充分せず、力だけで一方的に押すだけでは、とても4つのテストの第3項とか、第4項を満足せしめるような解決は出来ないでしょう。

こんな風に4つのテストを考えると、そこにはただロータリアン個人としての問題だけではなく、それを取りまく社会の、状態や教養なども大きな問題となってくるのであります。もとよりロータリアンは地域社会の職業的代表者のみでありますから、環境だけに責任を転嫁するような無気力や無責任は許されず、地域社会に問題があればますますその先頭に立って悪習の改善に力を尽さねばなりません、特にここで強調したいことは、4つのテストを真に生かすためには、深く考えもせず、ただ盲目的に言葉を暗記したり、分かったような安請け合いをするだけではだめだ、ということでもあります。そのため、日本の現状をしっかりと把握した上で、覚悟をして創意工夫を施さねばなりません。

4つのテストを読んで、先ず驚くことは、その個々の項目よりもむしろ人生に対処するまじめさときびしさであります。テイラー氏は社員に求める前に、まず自己に求めておるのであります。広告一つに

しても、嘘や誇大さや、さらには競争会社の悪口など一切を取り去って、高い道徳的立場で事に当たったということですが、これは余程の覚悟とまじめさなくしては出来ないことでもあります。「最もよく奉仕するものが、最も多く得る」と言われる如く、テイラー氏の経営は着々功を奏し、破産しかかった会社も、立派に立ち直り、繁栄をつづけているとのことでもあります。

更に4つのテストで感心することは、一方では大きな理想を描きながら、他方では極めて具体的、実際のだということでもあります。1から4までのどの項目を見ても誰にも分かり易く、行うことはむずかしいにしても、目標はまことにはっきりと示されているのであります。

孔子の弟子に曾子という人がありました。この曾子は孔子の道はまことにむずかしいようだが、よく考えれば「忠恕」につきると言っておるのであります。忠とはまっすぐな心、かけひきやごまかしのない心で、大体4つのテストの1と2に当るでしょう。いや、1と2に当るといよりは、1と2もこの中に含まれておると言った方がより正しく、忠にはもっといろいろな広い面があるでしょう。恕とは己れの如く人を思う心で、こういう思いやりのある心で事を処理すれば、4つのテストの3の好意と友情も得られようし、4のみんなのためにもなることでしょう。恕もまた4つのテストの3と4を含み、更にそれ以上に広いものを持っているようです。そういう意味では忠恕という言葉には誠に深いものがありますが、しかし、それだけに抽象的で、誰にも、どこでも、いつでも、事に当ってすぐ具体的な参考にはなりかねる点があります。具体的点では、たしかに4つのテストは遙かにまさっております。いつでも、どこでも、誰にでもすぐ応用できるためには、出来るだけ短かく、しかも具体的な方がよく、4つのテストはこういう考えから短かい具体的の言葉で自らに問う疑問文の形をとっているのであります。

たしかに4つのテストは、いつでもどこでも、我々の言行に対する正しいものさしとなります。もし我々の言行がこれに照らして立派なら、堂々と自信を以て歩けるでしょう。しかし、この4つのテストは先ずその中にある人生に対するきびしさとまじめさとを理解せずしては、とてもその真意は分らぬでしょうし、従ってまたとても言行を之に照らして実行するなどということは出来ないでしょう。机の上に飾るのもよく、会社に飾るのもよろしいでしょう。だが、ただそれだけではたいしたことはなく、時にはむしろ不真面目の譏りさえもうけかねないでしょう。

4つのテストはただ飾るものではなく、心の浄化剤とし、行動へのガソリンとすべきものであります。おたがいに祈りをこめて、この道を進みましょう。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 10 March 15, 1968

ガバナー月信 第10信 (昭和43年3月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

ガバナー公式訪問を終えて

各位ともお元気の事と存じます。私も去る2月16日の京都東ロータリー・クラブ例会訪問を最後として、私がお引き受けした当地区71クラブの公式訪問を終りましたが、本年度新設クラブの訪問はまだ残っております。公式訪問を終えたこの時点で、はっきり申しあげたいことは、私の心に残る明るい残光と深い感謝であります。私自身ロータリーに対する理解や実践にはまだ遠く及ばざるものがあることを誰よりもよく知っておりますが、そのためにこそ是非一人でも多くロータリーの正しいご理解を戴きたく、公式訪問の際は卒直に思うがままのことを申しあげましたが、それは誠にすなおにご理解して戴いたようであります。私はあまりこまかなルールなどよりも、ロータリーの綱領とか、「超我の理想」とか、「最もよく奉仕するものが最も得るところが多い」というロータリーのモットーとか、あるいは更に「4つのテスト」とか、ホッジス R.I. 会長のメッセージなどについて特に力を入れて、時間の許す限り語り合うことに致しました。これは、こういうものの中に、いわばロータリーの精神も歴史も含まれており、この真の理解なくしては、とても正しいロータリーの理解は不可能だと信じておるからであります。そして、これはただ各位に申しあげただけではなく、私自身にも言いきかせているのであります。これらについては、まだこれから考えつづけて行かねばならぬ点が多く、しかもそれはただ考えるだけでは駄目で、実践を通じて体得せねば分からねぬようなことも、いろいろあります。

ガバナー公式訪問の中に、私は多くのことを学び、また多くのことを考えさせられました。たとえば、或る職場訪問をした時、驚いたことがあります。それは案内してくれたその社長が、クラブの例会などの時よりもはるかに輝かしい表情をしておられたことです。クラブのアッセンブリーでも例会でも社

長の表情は、たしかに落ち着いた品のよいものでありましたが、会社で見る社長の顔はとてもその比ではありませんでした。その何倍も明かるく、しかも自信と活気に満ちたものでありました。その後こういう経験は、一度や二度ではありませんでした。一体これはどういうことでしょうか。ロータリーの例会などにおけるよりも、職場における顔がより明かるい、ということは考えようによっては、即ち職場そのものから見れば、たしかに素晴らしいことでしょう。しかし、ロータリーの側から見ると、いろいろと考えさせられる点があります。日頃の気疲れや憂鬱さを吹き飛ばして、今日の友情を楽しみ、明日の力を得ることにこそロータリーの一面があるはずでありますのに、ロータリーの例会での表情が職場ほどではないとは、一体どういうことでしょうか。どうも何かそこには無理があるようです。この無理の正しい解析は、私にも今すぐには出来ませんが、お互そういうことがないか、そしてあるとすれば、それは一体何か、などということも静かに考えてみねばなりません。あるいは、われわれが世界的に見ると閉ざされた社会に生きて来たため、社会生活に不慣れたなどということも、その一因かも知れません。少くとも私などにはたしかにそういう点がありましたし、今でも充分開いた社会性が身につけているとは思われぬ点がいろいろあります。あるいはまた折角出たロータリーの例会があまりにも型の如くで、やかましいことだけを言って、面白くない、などということも、その原因の一つかも知れません。例会の楽しさは言われる如く、スピーチもその重要な要素の一つでしょうが、しかし、それよりも忙しいひとときをさいて多くの友達と会ったり、話をしたりすることに本源的な自然な喜びがあるようにも思われますが、こうした会合の空気が各位のクラブに、どれほどつくりあげられているのでしょうか。義理で出る例会であったり、出席のために出る出席では、決してそれはあるべき姿のロータリーの会合とは言われませぬ。本当に出るのが楽しい例会——どうしても会員全体の力でそういうクラブをつくりあげねばなりません、それは会員すべての楽しい義務でもあります。ロータリーは奉仕を理想とする組織であります、ロータリー綱領の示す如く互に相手をよく知りあうことは、奉仕の一つの機会であり、奉仕の始めでもあるのであります。

公式訪問中に、今更の如くしみじみと味あわせられた言葉があります。それは「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という福沢諭吉のお言葉ですが、実は私は、こんなことはもう充分わかっていると思っていました。たしかに、そういう言葉はもう50年も前に聞いたし、その意味も一と通りは知っておりました。しかし、公式訪問中にあらためて私はまだこの言葉の最も深い意味までは知っておらなかったということに気づいたのであります。福沢諭吉は「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」と言っておられるのであります、考えて見ると私自身をも含めて、時には自分で勝手に自らも知らぬ間に自分を人の下においていることがあります。ポール・ハリスもいう如く、ロータリーの例会ではその入口で、社会的な名とか、地位などはすっぽりぬぎ捨てて、文字通り一対一で楽しい時を持つようにということですが、日本の社会ではなかなかすなおにそうばかりは行かず、これが無意識の間に一つのストレスとなっているようなことがあるようです。一対一ということは、人間として、ロータリアンとして、人を尊び、自らを尊ぶことで、決して威張るとか礼儀を知らぬとかいうことではなく、実は真に一対一が分らなければ、正しい意味での人間の尊厳などということ分らず、そういう人々の尊敬というものの中には、何か偶像崇拝的なものがあるように思われます。「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という言葉の中には、考えれば考える程深いものを含んでおりますが、明治の初期に既にこういうことを言っておられる福沢諭吉のずばぬけた偉大さを今更の如く思わずにはおられません。

ガバナー公式訪問中、もう一つ大きく心にどしんと来たものがありますが、それは法隆寺を訪ねた時、聖徳太子についての感慨であります。聖徳太子は、かねてから私も最も偉大な日本人の一人として尊敬もし、多少は読んだりもしていたのですが、従来はどうも仏教的な立場が主になっておりました。しかしこの度は、私は電気にでも打たれたように実感を以て日本文化全般の偉大な先覚者としての太子を感じることが出来ました。たしかに太子は日本人としては稀有な大型の人で、外来文化をただ単なる模

倣として取り入れたのではなく、これに日本の魂を入れ、そこに新しいものを創造されたのであります。私はガバナーとして時には自分でもよく分らぬことをしゃべっている自分が恥ずかしく、何か太子が強く私に「よい加減なことを言うな」と呼びかけておられるような気がしてなりません。

何をおいても楽しい例会を持つということは、ロータリー・クラブに取って、先ず最も大切なことでもあります。もう40年も昔になりますが、パリでこんな思い出があります。下宿の食堂で、フランス語を一語も知らぬアメリカの老夫婦と、かなりフランス語のできる日本人の一群とに出会い、老夫婦の方がむしろすなおにおおらかに食堂の空気を和らげていたことを見て驚きました。だからたとえば外国でも言葉を知るとか、知らぬとかということよりも、もっと大切な根源的なものがあるように思うのです。それは身についた血のかような社会的感覚というか、おおらかな人間的の豊かさではないでしょうか。

私は口癖のように、何処でも申しあげて来ましたが、やはり我々日本のロータリアンに取って最も大切なことは、ものわかりがよくて、ものにこだわらず、奉仕を理想とする〈おとな〉になりたいということでしょう。つい近頃までは直接世界のことなど話題にのぼらなかった日本の田舎で、この頃は外国から来る研究グループの話などをしての話を聞くと、日本も成長したものだなと思います。

ロータリー年度の後半期はどうぞきびしいクラブの自己批判とそれに基づく明日への成長の時にして下さい。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 11 April 15, 1968

ガバナー月信 第11信 (昭和43年4月15日)

第365区ロータリークラブ

会長 並びに 幹事殿

国際ロータリー第365区ガバナー

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

第522区からの研究グループを迎えて

各位にはいつもながら世界社会奉仕や研究グループの仕事などに熱心な御協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。先ずもって御同慶にたえないのは、世界社会奉仕の仕事が極めて短時間に、立派に実を結んだことではありますが、これはひとえに各位の印度救癩事業に対する深い御理解の賜と存じ、感謝のほかはございません。

次に嬉しいことは、去る3月18日予定の如く伊丹空港にカリフォルニアの第522区からの研究グループ



<写真は来日前、第522区ガバナー Alan D. Christensen (今回不参)とともに撮られたもので、団長の Bill Rogers は同地区のバスター・ガバナーです。>

* 前列左より	* 後列左より
Jeff Meeks.	Bruce Rowilson.
Bill Rogers.	Carl Buxman.
(Rotary Leader)	Alan D. Christensen.
Bob Meyer.	(District Governor)
	Charles Bloch.
	James West.

プの一行7名を迎えたことであります。まさに「朋有り、遠方より来る、亦楽しからずや」という感じ
であります。空港では研究グループ委員会の委員長絹川清君を始め奥村竜三君、酒井美智男君、不破治
君、井狩弥治郎君等の諸氏、大阪ロータリー・クラブの塚本義隆会長、昨年日本から訪問した研究グル
ープの諸氏や御婦人など多数の方々が出迎えされ、原田ガバナー・ノミニエも私も参りました。いか
にもロータリーらしく打ちとけた明かるい出迎えて賑やかでした。一行は直ちに空港から自動車で京都に
向い、京都市では先ず京都新聞社に立ち寄り、簡単に京都訪問の挨拶をし、5時頃パレスサイド・ホテ
ルに到着、殆んど休む暇もなく6時から祇園の「やさか」で第365区の歓迎レセプションに出席、初対面
にもかかわらず、十年の知己の如き親しさで、楽しいひと時を持つことが出来ました。

研究グループの各個人についてはここでは触れませんが、何れ一行は各地域に参ることですので、そ
の必要もありますまい。ここではただ短時日の間にうけた二、三の印象について述べるにとどめます。

一行は団長以下まことにすばらしい人々です。第522区で十分厳選された人々だから、さだめしよい
人々だろうとはかねて思っておりましたが、嬉しいことに、それはさらに予想以上に短時日の間にすっ
かりわれわれを魅了いたしました。私はすぐに団長のウィリアム S. ロージャース、通称〈ビル〉とはす
っかり仲よしになりました。人生の何もかもを知ったこの善意のおやじ、しかもゆるぎない信仰と真実
とで貫かれているまじめなこのロータリアンは、本当によい団長だと思います。彼の目は若者への愛に
満ちながらも、何ごとをも見逃さない鋭さを持っています。

一行6人の団員たちも、それぞれ個性を持ちながら、しかも実にすなおで、明るく、研究心が強く、
まことに打てば響くというようなものを持っており、年齢は25才から32才で何れも大学卒であり、高校
の先生2人、実業家3人、牧師が1人で深い教養と鋭い批判力とを持っております。この5日間の若者
たちの言葉の二、三を拾って見ましょう。

「日本へ来て驚いたことは、これほど日本が文化的に進んでおる国とは思わなかった。今われわれは
日本文化の古さと新しさ、そしてその不思議な融合を自らの眼で見、自らの耳で聞いて正直のところ全
く驚いている。」「こういう日本の状態を一人でも多くのアメリカ人に見せたいと思う。こういうことを
教養のあるアメリカ人が知ったら、日本に対するアメリカ人一般の考え方は大いに変るだろう。いや、
ただ日本に対してのみならず、アジア全般に対しても変るだろう。」「同質の文化だけを見ていたのでは
気のつかぬような色々のことが心に浮んでくる。若い間に歴史や習慣を異にする他国を見ることが、ど
れほど重要かということが少し分ったような気がする。」「どこへ行っても、日本の建物がこわされて西
洋式にたてかえられているが、これは一体どうしたことか。我々にはどうも合点が行かぬ点がある。」「
表面だけを見て、ものを判断してはならぬ。真の理解には表面的の理解だけでは駄目で、ものの内面と
か、民族の心理などまでも知って見ねばならぬ。」

これらの発言でわかることは、一行の若者たちが、ある面ではきびすぎる程の批判と内省とを以て、
鋭くものを見ていることであります。恐らく彼等の鋭い観察は京都でやっとわかったと思ったような現
象が、ほかの土地へ行くと再び分からなくなるようなこともあるかと思いますが、どうぞそういう時は
出来るだけ親切に説明してあげて下さい。

異なる文明や文化を理解することは決して容易ではありません。世界的の歴史家 A. J. トインビー博
士は〈異文明間の邂逅接触〉のなかで述べておられますが、まことに傾聴に値します。

「われわれが文明とよぶ人間歴史の発展段階がはじまって以来今日まで、時代を同じくしていた、い
くつかの異なった文明のあいだに邂逅接触 (Encounter) という歴史的現象がつねに見られる。もろもろ
の局地的な文明は、みな、それぞれの発生地とそれぞれの郷土とをもったものではあるが、それらは全

部、同じ地球の表面を生存の場所とし、自分の領分を拡大しようとし、また生き方を異にしている人びとのあいだに自分の勢力を拡大しようとする傾向をもっている。そのために文明の黎明よりいままで絶えず、局地的諸文明のあいだに邂逅接触が行われて来た。そういう邂逅接触のあり方は親友的だったり、敵対的だったり、平和的だったり、暴力的だったり、多種多様であった。そのあり方がどんな性質のものであっても、そういう邂逅接触は、ほとんどつねに多くの実を結んだ。そのような異文明間の邂逅接触の経験は、技術とか戦争とか、政治、経済、建築、芸術、宗教とか言った、数多くのさまざまな活動分野における創造行為の主たる刺激剤の一つとなったのである。（トインビー歴史の教訓、松本重治編訳、岩波書店）

たしかにトインビー博士のこの観察は正しかろう。しかし、ロータリーの考え方と行動とは独特で、異なる文明の邂逅接触もつねに国際的な友情と理解とを以て行われ、あくまでも平和的でありました。恐らくロータリーの活動の中には、ただ自然にまかせたのでは、とかく異文明間の邂逅接触には不幸な形がとられ易いので、そういうことにならぬようにとの祈りもあったことでありましよう。研究グループなどもそうした国際理解の理想具体化の一つとも見られましよう。

研究グループの諸君はみな卒直の方々ばかりですので、各クラブでもどうぞあまり日本的の遠慮をしないで下さい。一行のロータリー・クラブ訪問には、どこでも親切にして戴き、一行も心から喜んでおります。ありがたいことですが、しかし、あまり大事にしすぎて一行に固さを与えてもいけませんので、あるがままに各位の友情と親切で気楽におもてなし下さい。ロータリーにはロータリーの心の言葉があり、団長はじめ一行の人々は、みなすばらしい目と頭を持っておられますから、各位の心はそのまま団員一同にも通じることと存じます。

私は昨年わが第365区からの研究グループの一行がアメリカから帰った時、短時日の間に、よくもこれだけ多くのものを学びとって来たものだと、その素晴らしい成長ぶりに全く感心いたしました。しかし、この度第522区からの研究グループの一行を見て更に感歎を新たにし、大きな期待をかけております。

たしかに人類の将来にとって若者ほど尊く、大切なものはないでしょう。それは日本にとっても、アメリカにとっても、否全世界にとっても同じことでありましよう。国際的な正しい理解と深い友情とには、何よりも若人の柔軟さと誠実さが望ましいのです。国際ロータリーが近年、研究グループとか、インターアクトとか、更にはローターアクト等に格別の力を注いでいるのも、その目指すところは、そういうところにあると存じます。

どうぞ皆さま、第522区からの研究グループ一行を心から迎えて、しかも、できるだけ気楽に、一行が所期の目的を達成できるよう御協力下さい。一行の訪問先クラブからはいろいろ有益な御感想など戴きつつありますが、これらについては追って御報告申したいと思っております。

花の春は今やまさにたけなわであります。初夏の新緑ももう遠くはありません。美と光のシーズン、切に各位の御自愛をお祈り申します。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 12 May 15. 1968

ガバナー月信 第12信 (昭和43年5月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

ロータリーと青少年問題

目もまばゆいばかりの新緑となりましたが、各位にはロータリー活動のためにいよいよ精進のことに存じます。私もあと残された僅かばかりのロータリー年度のなかで、てんてこ舞しているような状態でございます。ちょっとここ1ヶ月の主な行事だけを拾って見ても、4月2日の京都山科ロータリー・クラブの創立総会、4月9日の大阪での万博委員会、4月20日の京都教育大学附属高等学校インターアクト・クラブの認証状伝達式、4月21日の大和郡山クラブの創立5周年式典、4月22日の地区世界社会奉仕事業としての印度救癩事業病棟寄金の贈呈式、4月27日の大阪天満橋クラブの認証状伝達式、4月28日の大阪における R.I. 第522区からのグループ・スタディ・チームの会合、5月1日の信州飯田ロータリー・クラブ第600回例会の記念式での講演等いろいろありますが、しかし、これらのどれ一つを取って見ても、ロータリーの行事は感激的で、楽しいものばかりであり、いわばガバナーはこうした雰囲気の中で活力を与えられ、教育されているとも言われましょう。

この度は、この地区としては第4のインターアクト・クラブたる京都教育大学附属高校インターアクト・クラブの認証状伝達式もありましたので、ロータリーと青少年というようなことについて考えて見たいと思います。この問題は、更に高い立場から見ますと、ロータリーと教育という問題の一つとも見られましょう。ロータリーと教育という風な表現はやや固すぎるためか、あまり用いられないようですが、しかし、情報委員会——Information Committee——を教育委員会などと呼んでおるところもあるように、インフォメーションもたしかに広い意味では教育の一部と考えて差支えなく、ロータリーの組織そのものがあたたかい友情のなかで、奉仕と国際理解とをめざしている教育的組織だと考えても大過

はなかろうかと存じます。元来、長所をひき出して人間を伸ばそうという教育そのものをあまり固いものだと考えるところに無理があるのであって、その理想とするところは、むしろあかるい環境、よい社会をつくりあげて、その中で育てば、おのずからよい人間が出来あがるというようなところにあるのであろうと思われまゝ。しかし、実際にそういう社会や環境をつくりあげることは決して容易ではなく、ロータリーのいう広義の社会奉仕も、その重点は窮極的にはそういうところにあるのではないのでしょうか。

ロータリーでは従来から青少年問題を重視してきましたが、しかもその重要性は年ごとに加わるばかりであります。たとえばロータリー財団奨学生は従来は大学院在學生だけであったものが、新しく大学在學生にもその範囲がひろげられたとか、研究グループ交換が年ごとに活発になり、現にわが第365区でもカリフォルニアの第522区から目下団長以下7名のチームをお招きしているとか、青少年の国際的交換として6月から8月まで米国と2名の高校生の交換を行うなどということは、みなその現われであります。

こういう構想の中でも、インターアクト・クラブの結成は国際ロータリーの企画としても特筆すべきもので、ご承知の如く、インターアクト・クラブは大学課程へ進学前の1～3学年に在學の男女學生によって作られ、奉仕と国際理解の精神を養うことを目的としたものであります。日本ではちょうど高校の學生に相当するもので、学校中心でも、学校とは無関係に地域中心につくってもよいのであります。が、会員は従来正式には男子學生のみに限られていたのが、今後は過半数を超えない限り、女子學生の参加もよいことになり、インターアクトの結成もよほど楽になることと存じます。しかし、日本でも他の地区ではインターアクト・クラブの結成も盛んで、第370区は70クラブ、第357区は22クラブ、第358区と第369区は各々19クラブ(昨年11月末現在)等々よい成績をあげておられるのであります。残念ながらわが第365区は、いろいろの事情があるとはいいい、この点では大いにおくれております。さいわい、この度、関係各位のなみなみならぬ御骨折りにより、京都教育大学附属高校インターアクト・クラブの結成と、これにつづく奈良市立一条高校インターアクト・クラブ——創立總會をすまして目下R.I.に認証申請中——が結成され、はずかしいことながら、これでやっとこの地区にも5つのインターアクト・クラブが成立して、インターアクト・クラブのガバナーを選出することができるようになりました。インターアクト・クラブの理想は、奉仕と国際理解で、ロータリーとその目的を一にするもので、たえずスポンサー・クラブと連絡をとり、その助言をうけるべき立場にはありますが、しかし、ロータリー・クラブそのものではなく、その目的に反しない限り、自主的に運営さるべきものであります。この奉仕と国際理解をみざす自主的実践の中にこそ、新しい時代の若人の成長があると存じます。奉仕とか、国際理解とかいうことは、言葉の上だけならば、ロータリアンは耳にタコが出来るほど聞いておりますが、しかし、私自身顧みても、それほどからだにはしみついておらず、必ずしもわれわれの日常生活のすみずみにまで浸透しているとは言われません。世界が日毎に狭くなりつつあることは、われわれにもよくわかるのですが、それでもまだわれわれには世界はかなり広く思われます。戦前日本では社会は家庭と国家との間に圧縮されて、欧米諸国で理解されて来たほど身近かものとしてじかに肌身では感じられなかったようです。こういう日本の社会状況の中ではインターアクト・クラブなどの重要性も、あまりピンとこないかも知れませんが、しかし、人類への奉仕をみざすわれわれロータリアンは、それだけ、よりよき人類の将来のために、もっと、もっと、こういう仕事に眼を向けねばならぬと存じます。

こういう方面の仕事で、もう一つ新しいR.I.の企画として特に目だつことは、ローターアクト・クラブの提唱です。このローターアクトは、インターアクト・クラブとロータリー・クラブとの間をうずめるいわゆる Young Adult のための企画で、提唱クラブの地域内に居住する就職または勉強中の17～25才までの男女を対象とし、男性が半数またはそれ以上でなければならぬことになっております。その目的はやはり奉仕と国際理解を主とするもので、インターアクト・クラブと同じく、学校(大学)単位でも、またそれとは無関係に地域単位でもよいことになっております。いわゆる Young Adult を対象と

したこのローターアクト・クラブの計画もR.I.で長い検討をへて始めて実行に移されたものと聞いていますが、こういう計画を通じて、しみじみ感じることは、いかにR.I.が世界の現在のみならず、将来に向っても着実に、その理想の具体化に真剣にとり組みつつあるかということがわかります。インターアクトとか、ローターアクトとかいうようなものは、ただ近視的、現実的に目前しか見ないようなものには充分にその真意を把握することはむずかしく、実はかく申す私自身もその例外ではないようですが、まあ多少はせのびをしても、一日も早くそういうインターアクトとか、ローターアクトなどのなかにある息の長い理想とか国際性とかいうものに、深く思をいたし、こういう感覚が本当に身についたロータリアンになりたいものであります。

青少年への奉仕の問題はまことに広く、深く何もインターアクトやローターアクトで始まったことではなく、R.I.としても既に久しく社会奉仕部門などで、その重要性を強調して来たのであります。地域社会に密着した組織的な企画としては、いろいろ不十分な点がありましたので、近年インターアクトの結成となり、更にローターアクトと進んで来たのであり、更に各方面の経験から女子をも正会員に加入せしめなければ無理があるということで、この度始めて正式に女子の加入も認められることになったのであります。久しく関心を持ちながらも、まだR.I.としても青少年への奉仕の歴史が浅いことは、手続要覧の中のその関連事項を見ても、インターアクトの項がその主要部をしめていることなどからもよく分かります。私がここで、特にインターアクトとか、ローターアクトのことを強調するのは、何も新しいものに飛びつくというようなことからではなく、R.I.が明日の世界の奉仕に如何に苦心し、如何に熱心であるかということを示して、われわれ日本のロータリアンも島国的な偏狭且つ近視的なくさ味をすてて、R.I.のこの前向きの姿勢におくれをとりたくないと思うからであります。

しかし、同時にここで一言触れておきたいことは、青少年問題の解決は決してロータリーの独占ではなく、この問題には多方面の活躍があるということであり、たとえばボーイ・スカウトやガール・スカウトなどのスカウト運動、国際ユースホステルの運動、国際赤十字青少年の運動等は、何れも広く考えれば、直接または間接に自己の訓練、社会奉仕または国際理解などを目ざしているもので共通点多く、健全な青少年の育成には手を握りあってよい組織であり、また国際的な奉仕組織としても決してロータリーだけが唯一のものではなく、既にわがロータリーの創始者、ポール・ハリスも説く如く、ライオンズやキワニスなども手を握って、堂々とそれぞれわが道を歩きながらもよりよき人類社会の建設に大乗的に協力してよいものだと存じます。

なお、ここに青少年問題を論ずるに当って、どうしても忘れてはならぬものに、ロータリー以前の問題があります。それは青少年の教育における親の責任であり、家庭の責任であります。近頃の日本ではあまりに学校教育に力を入れすぎて、入学試験などには本人のみならず、家庭全体が血眼になりすぎて、何よりも大切で、しかも教育の最も基礎である家庭教育がとかく忘れられがちになっております。しかし、子供の教育にとっては、家庭ほど重要なものはなく、それは教育の基礎の中の基礎であり、人間の真の教育は決して学校で始められるものではなく、就学前の家庭そのものに始められるものであり、この意味では家庭こそは一国の基礎であり、人類社会の基礎だといわねばなりません。「三つ子の魂百まで」と俗言にもいいますが、正にその通りで、人間の基本的な性格、たとえば誠実、努力、親切、忍耐などというようなことは、意識的に口で教えられるというよりも、むしろその芽は家庭で教育以前の問題として、いつとはなしに父母などの日々の行動を通じて自然に子供がまねをしながら身につけるものであります。父や母が自らの過去も現在も忘れて、自らやったこともなければ、また出来もしなかったことや、そして最も悪いことは現在も自ら真剣にやろうと思ってもいないようなことを、ただ口先で子供に説教しても、決してよい効果を持つものではなく、時にはむしろ逆効果さえもたらすものであります。私には現在6人の子供と11人の孫がありますが、この年頃になって、しみじみ思うことは、われわれ夫婦が過去におかしたか、あるいはおかすおそれのあった以外の過ちをおかしたようなものは子にも孫にも1人もなく、どうも子供の過ちは即ち私ども肉身の中にあるものの現れたと言っても過言ではな

いようであります。時には子供の行為に驚いたり、あきれたりするようなこともあります。それとも静かに考えると、若き日の私どものある一面でしかないのです。

要するに子供の家庭教育では親自身が持たないようなことや、また持つべく真剣な努力をしないようなことを、ただ口先で教えてもだめで、子供をよく育てようということなら、先ず親自身がまじめに考え、誠実に行動することだと存じます。そして規律正しい生活の中で甘やかさず、目のついた愛情の中できびしいけじめをつけ、子供を信じて、決して子供がやけくそを起さず希望を以て生きられるようにすることだと信じます。家庭教育は言葉ではなく、親の行動がもとになるのです。いや、これは家庭教育だけではなく、恐らく教育一般においてそうでありましょう。

公式訪問の際など青少年の問題を聞いて見ると、どうもお座なりのものが多くございますが、これは一つには問題があまりにも広く、深いからだと思えます。非行少年の防止、交通災害の予防、不良少年の善導等、いろいろとあげられますが、思うに私は青少年対策の最も重要なことは、先づ以てロータリアン自身が家庭で、その子女を立派に育てることが先決問題であり、この家庭における青少年教育の経験がそのまま地域社会での青少年指導の基礎となると存じます。何ごとともそうでしょうが、特に青少年の指導には、ただの口先きではなく、心からの真実さと、現実社会の正しい把握が必要であります。現在の日本を見て、特に淋しいことは働く青少年に対する配慮の乏しさであります。こういう方面には各クラブでも格別のご配慮を賜りたいと存じます。この意味では奈良クラブの働く青少年のためのスポーツ団結成などは特筆に値すると存じます。

人類の運命は、個人のそれを超越した永遠のものであります。われわれ個人はこの地上ではひと時の旅人で長生きをしてもせいぜい百才ぐらいで地上の生命を終わりますが、それをうけついで人類社会を前進せしめるものは、われわれにつづく次の世代であります。こうした見地からは恐らく若人をよりよく伸ばすこと、そしてそれによって次の世代をよりよくすることほど素晴らしい仕事はないでしょう。若もの、それはおとなを小さくしただけのものではなく、無限の可能性をその中に潜存し、やりようによってはいかほどにも伸び得る神秘をその中に蔵した不思議な存在であります。R.I.が大きな夢を具体的に実現しようとして、インターアクトやローターアクトを結成していることも、こうした角度から眺めると、実に素晴らしいことだと言わねばなりません。ロータリーは大望を描きながら、社会奉仕に生きようという組織です。陽光に輝く新緑のように、われわれロータリアンもロータリーの情熱にもえましょう。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 13 June 15, 1968

ガバナー月信 第13信 (昭和43年6月15日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

ロータリーの歩み

この間あるバスター・ガバナーから月信受け取りの御礼に「いよいよガバナーの仕事もホームストレッチにはいりましたネ」というお言葉がありました。辞書を引いて見ると、Home stretch というのは、本来は決勝点の直線コースのことだそうですが、転じて仕事の最後の部分などというような意味にも用いられるとのことであります。「いよいよホームストレッチにはいりましたネ」というお言葉のなかには、かつてガバナーとしての御体験を通じての御同情と御激励のようなものがあるようであります。

仰せの如く、ガバナーとしての私の仕事はたしかに終りに近づき、月信もこの号を除いてあと一回となり、感慨無量のものがあります。この仕事が終わるということは、ほんとうに私にはうれしいことであり、またありがたいことであります。これは恐らく私だけではなく、各ロータリー・クラブの役員理事一同についても御同様のことと存じます。

ロータリーの仕事は、それ自体としては楽しいことでありますが、油断の出来ないことは、ロータリーはたえず前進しつづけているということでもあります。ロータリーは、仕事の質においても、量においても決して一点に停止したり固定したりすることなく、たえずその感覚において、思索において成長をつづけております。ただ過去のまねをしておるだけならば、過去のあり方や、考え方だけで間にあうでしょうが、たえず考えながらその理想の実現に前進するロータリーでは、何よりも先ず新しい事態に対する正しい理解と人間的成長が必要であり、そのことはまたロータリアンの人間的幸福にも貢献することと思えます。

国際ロータリーの今日までの足跡を大観して、つくづく感心することは、そのすばらしい生長振り

あります。1905年2月23日に始めて集まった Paul P. Harris, Gustavus Loehr, Hiram Shorey, Silvester Schiel なども恐らく僅か63年の間に、ロータリーが会員約63万人、参加国約140ヶ国というような大きな組織になるうとは思わなかったでしょう。もともとロータリーはポール・ハリスの優しい頭脳と孤独の心に根ざしたものであります。ロータリーは、もし人間がただ機械的にビジネスの面からだけではなく、もっと人間的に親しく深く交わることが出来たら、はげしい生存競争や混乱の中でも、人生をもっと明かるく楽しくできようとの素朴な夢から生れたものであります。したがって始めはむしろ友情と相互扶助が目的の主なもの、会員間の関係も自然で、無理や行き過ぎなどはなく、会員の選択にも学力とか、社会的地位などにあまり捉われず、共通の理想に対する情熱と人柄とがすべてであったようであります。ロータリーの4人の創立会員のうちで、大学教育をうけたのは弁護士のポール・ハリスだけでありましたが、しかし、そんなことには無頓着に石炭商のシルベスターが第一次の会長に選ばれております。鉱山技師のローアと洋服生地商のショーレイは何れも火の玉のような人間で、もしこの2人がおらねばロータリーの発足がおくれたのではないかと思われるくらいであります。2人とも間もなくその事業が面白く行かず、会員を辞退しておりますが、こういう創立当時の事情は、いろいろと今日のロータリーのあり方にも示唆するものがあるようであります。私がここで言いたいのは、決してロータリーがその創立当時、よい加減に会員を選んだということではなく、むしろその逆で、創立当初にはいかに人選が自然で素朴であったかということであります。

文化社会は一面組織化であり、組織化ということは望ましいことではあります。へたをすると血のこよった素朴さを忘れることになりまますので、やはり心すべきものがあると存じます。綱領第2の第2項には、「総ての有用な職業の価値あることの認識」と書いてありますが、特に日本では世界的な眼で社会を見、職業を見て、世界におくれることなく、あらゆる職業に対する認識をより深くしたいものであります。

ロータリーは前述の如く、創立当初においては友情と会員の相互扶助などに重点がおかれておりましたが、ただそれだけでは利己的にすぎるといような声があり、会員の鋭い反省もあり、間もなく奉仕ということに重点をおき、これを以てロータリーの理想とするようになりました。この奉仕も始めはまず最も手近のものとして各自の職業を通じてのいわゆる職業奉仕ということになり、「超我的奉仕」とか、「最もよく奉仕するものが最も多く報いられる」とか、「4つのテスト」などがロータリーの標語となりました。しかし、ロータリーの奉仕は、ただ自己の職業を通じての職業奉仕だけでは狭すぎるので、より広い地域社会の全面に亘ってのいわゆる社会奉仕に展開し、この社会奉仕は国家社会への奉仕を越えて今や世界社会奉仕にまで生長しつつあります。一方クラブが大きくなるにつれ、クラブの自家運営をするための世話も必要となり、ここに世話女房的ないわゆるクラブ奉仕が生まれました。このクラブ奉仕によるゆるぎないクラブ内の活動があり、その基盤に立って始めて主として対外的な他の領域の奉仕も出来るわけであります。

国際ロータリーが今日の発展を見るに至りましたのは、もとより決して1人や2人の力ではなく、大きく見れば恐らく奉仕を目ざす世界の全ロータリアンの力でありましようが、しかし、特に奉仕に徹した偉大な先輩たちに負うところが多いのであります。そしてそういう偉大な先輩たちのなかでも、特にすべてのロータリアンが忘れてはならぬ人は、Chesley R. Perry でありましよう。1960年2月彼が死亡した時、ポール・ハリスは「若し真実私が設計者と呼ばれ得るとすれば、チェスはたしかにロータリーの建築者と称ぶことができましよう」と言いましたが、彼は正にそういう人であります。ペリーは1942年70才で退くまで、前後実に32年間ロータリーの事務総長の職にありました。その後、彼は名誉事務総長とか、国際ロータリー会長などにもすすめられましたが、彼は悉くこういうものを辞退して、最後まで彼の所属ロータリー・クラブの一員に踏みとどまりました。恐らくペリーなくしては、これほど急速な国際ロータリーの拡充発展は考えられなかったでしょう。彼は1人のロータリアンとして偉大でありましたが、1人の人間としてはより偉大でありました。国際ロータリーの大きな骨組で彼が頭や手を全然

触れなかったものは恐らく一つもなからうと言っても過言ではなく、彼の目は深く、広くロータリーを見、ロータリーを愛しておりました。彼は一面きびしい人間でありましたが、それでいて決してただのつめたい理屈屋ではなく、真に規則を生かして使える人だったと言われていました。ポール・ハリスと共に、ロータリーのつづく限りチェスレー・ペリーの名は消えないであります。

ロータリーに限らず、ある一つの組織が発展するうしろには、必ずそこには単なる理想や原理だけではなく、それを動かす人間がおります。邁進するところには、必ず道は開けます。国際ロータリーの今日の発展も偶然ではなく、そのうしろに歴代 R. I. 会長や役員諸氏の無私の奉仕があることを忘れてはなりません。

言うまでもなく国際ロータリーの原則は、ロータリー綱領に示されていますが、具体的の活動はその時々国際ロータリーの会長によって示されるのであります。ここ数年来の国際ロータリーの活動を見て特に気づくことは、ロータリーの内的及び外的拡大、ロータリー精神の普及とこれを次代にうけつぐための各種の青少年教育、世界を身近かに感じて、その幸不幸を共にしようといういわゆる世界社会奉仕などに重点がおかれているということであります。ロータリーと青少年教育の関係については前号にも触れましたが、各クラブにとっての最も具体的な問題としては、インターアクトやロータリーアクトなどの結成があります。こういう問題はただ目新しい問題にとりつくということからではなく、もっとひろく遠く世界の将来、日本の将来を見るという角度から、じっくりと努力せねばならぬ問題だと存じます。世界社会奉仕についても、全く同じことが言われましょう。実はこういう問題になると、私自身が島国的時代の中に育ったためか、頭では理解が出来ても、まだからだでは何の抵抗もなくうけ入れるというほどには成長しておらず、わかったようなことをいうことはまことに恐縮に存じます。しかし、頭ではわかりながら、まだからだではすなおに感じとれないという私の中にあるこの矛盾とはがゆさはますます問題の重要性を私に迫るのであります。こうした私のロータリアンとしての未熟の自覚が、たえず私自身によりよきロータリアンを要求しますが、こうしたことがあるいは私の言葉をいつも固いものにしていくかも知れません。

ロータリーの拡大は昨日今日の問題ではありませんが、本年度は特にお骨折りを戴いて三つの新クラブ、即ち大阪天満橋ロータリー・クラブ、大東ロータリー・クラブ及び京都山科ロータリー・クラブができて、大いに感謝しております。新クラブの結成については、会員の選択、地域の割譲など大小いろいろ骨の折れることが多いのでありますが、本当にスポンサー・クラブはよくやって戴きました。新クラブの結成は決してただ外に新しいクラブが出来るというだけのことではなく、そのうしろにはスポンサー・クラブや協力クラブなどのロータリー的理解と人間的成長があるのであり、その意味ではこの外部拡大は実は同時に真の意味における内部拡大をも蔵しておるのであります。

ただ規則を覚えるだけではなく、生活の中にロータリーを生かして一筋の、しかも限りないロータリーの道をどこまでも、どこまでも歩き続けましょう。

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 13 <Special Issue>
June 25, 1968

ガバナー月信 第13信 <特集>
(昭和43年6月25日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

第522区からの研究グループ交換チームを送って

カリフォルニアからの研究グループの一行が帰ってから、もうやがて2ヶ月になります。ビル団長以下6名の若ものは、皆すばらしい人々ばかりで、彼等の帰国以来、何かわれわれは手の中のを落したようなわびしさを感じております。この度の第522区からの一行は昨年3月から5月にかけて世話になった当地区からの一行に対する交換チームで、本年3月から5月の2ヶ月に亘って本地区の各地をまわられたのですが、どこでも温かい歓迎を受けられ、ビル団長以下一行も極めて満足して帰られました。これはわが地区としても、誠に嬉しいことであります。これで第522区と、わが第365区との今回の研究グループ交換計画は一応終わったわけですが、その具体的経過については、どうぞ、この計画について並々ならぬ御骨折を賜った研究グループ交換委員会の絹川委員長の御報告をご覧願います。

私は、今回の研究グループ交換がこれで、一応終わったと申しましたが、わざわざ一応と言いましたのは、この研究グループ交換の影響には大別して2種、即ち研修の間、或はその直後のものと、更に長く尾をひく永続的のものがあると思うからであります。これはカリフォルニアから来られた一行についても、また昨年この地区からカリフォルニアを訪れた一行についても言われることで、若い日の外国訪問の眞の消化と醗酵には、長い歳月を要するものであります。

たとえば私自身について見ても、私が初めてスイスを訪ねたのはもう40年にもなるのであります、そこでの1年間の留学はまことに意義深く、未だに私はその時の収穫を完全には消化をし、醗酵せしめておらぬようであります。当時の直接の目的はチューリッヒ大学脳解剖学研究所における神経学の研究



でありましたが、実は私はそこに思わざる拾いものをしたのであります。即ち私はそこで、ただ神経学や、スイスについて学んだのみならず、驚いたことには、それよりも、日本自体について、さらには自己自身についてより深く学び、より深く考えさせられたのであります。どこを見ても日本人ばかりの日本では、それまで気づかなかった日本の欠点や長所が、はじめてしみじみと私にとって問題となり、思索の対象となりました。実はこの私自身についての深い思索こそが、私の最初の外国留学たるスイス留学の最大の収穫のようにさえ思われるのであります。それは、その後の私という人間の人間づくりにも、また学者としての成長にも根本的な要因となっておるようであるからであります。一般的に言って、異なる自然や環境、異なる歴史や遺伝質の下で展開される文化や人間の姿が違うのはむしろ当然ですが、しかし、それだけにそれぞれ本質を持っており、それらを正しく理解するには、あくまでも先入観を捨てた深い考察と善意とが必要であります。そうした時、はじめてわれわれは、しばしば表面的には違っておるようで、実はむしろ本質的には同じであったり、あるいは逆に一見同じようで、実はむしろ内面的には違うものがあることなどを発見するのであります。恐らくロータリーの研究グループ交換などにも、きっと、そういう経験がありましよう。さればこそ、自らの目、自らの耳で学ぶ研究グループ交換計画が、ますますその重要性をますますことにもなると思うのであります。

ビル団長以下団員のすべてが無事に楽しく、研修の目的を達せられたことは実に嬉しいことであります。一行はそれぞれ各地で、生涯忘れ得ぬ友情を得て帰られた模様であります。そして今は第522区の各地で、あらゆる機会を利用して、この度の研修旅行について、熱のこもった精一杯の善意の報告をしておられるようであります。何としても若ものの純情は尊いものです。一方では鋭い批判を持ちながら、他方ではとろけるような讃美ができるのです。各国の若もの間における囚われることのないこの全人的な讃美と思索こそは、明日の人類の歩みにとって最も望ましく、且つ最もたのしいものでありましよう。この点ではこの度の研究グループの米国からの一行についても、また日本からの一行についても、等しく大きな期待が持てるものと、私は固く信じております。

もとよりこの研究グループ交換は、わが地区については、最初のこと、こまかな点については、将来改善を要すべきものがいろいろあると存じますが、これらについては委員会の報告でも触れられておりますので、ここでは繰り返しません。

最後に私はこの研究グループ交換計画に御尽力を賜った第522区及び第365区のパストガバナーやロータリアンのすべてに対し、なおまた直接この計画に対しお骨折を戴いたこの地区の研究グループ交換委員会や各地のロータリアンに対して心からの感謝を申し上げます。わけても、病気をおして頑ばりぬいて戴いた絹川清委員長、若ものにとけこんだ情熱の名リーダー奥村龍三君及び Willam S. "Bill" Rogers 君、終始当地区と相呼応して労を惜しまれなかった第522区ガバナー Alan D. Christensen 君等の印象は強烈であります。Alan や Bill のからだのぬくみは、きっと生涯私のからだからさめることはないでしょう。日ごとに狭くなりつつある世界が、肌と肌との直接の接触によって、ますます明るく、あたたかいものになることを念じてやみません。ほんとうに、ありがとうございました。



WILL EVERY ROTARIAN OF DISTRICT 365—
PLEASE ACCEPT THIS AS A PERSONAL
MESSAGE TO EACH FROM MY HEART—
ARIGATO ARIGATO ARIGATO

YOU HAVE MADE OUR VISIT TO YOUR GREAT
COUNTRY BOTH ENJOYABLE AND EDUCA-
TIONAL. WE ARRIVED AS STRANGERS—WE
DEPART AS FRIENDS.

I especially desire to thank District General Chairman, Kiyoshi Kinugawa, and each and every Area Chairman, Michio Sakai, Zenpachi Hirota, Yajiro Ikari, Mikizo Tomoda, Zenzo Yamaguchi, Jiichi Kato.—Each and Every Club President, and Rotarians who gave of their time and effort to make our visit with them both pleasant and education. What a wonderful experience to remember. I would like for each Club President to please extend my thanks to his members. We have been accepted by you — and what more can one ask —?

TO A GREAT LEADER — Dedicated Rotarian, and A Warm Hearted Gentleman — Governor Dr. Ko Hirasawa. If I had only had the opportunity to know, visit, and associate with him alone it would have been worth a trip across the sea. I will forever carry in my heart a statement he made to me — “Bill, Book knowledge and other knowledge is minor to understanding and love between people — unless we have this nothing matters”. I wish that his could be in every man’s heart.

This is primarily a Rotary Foundation Project among our young men — Leaders of our countries of tomorrow. I know from observation and personal experiences the spirit of the program has extended to older Rotarians. We too desire to preserve the future.

So — Sa Yo Na Ra — in Body — but not in thoughts and feeling — I am leaving for home with a light heart — knowing I have hundreds of new made — and I hope permanent friends — who all desire to increase Peace, Goodwill, and Love between all men of the world.

SO LET’S LOOK AT THE CHALLENGE OF TOMORROW — TO HELP CREATE A WORLD WHERE ORDER, SERVICE TO HUMANITY, AND PEACE PREVAIL —

“FOR YESTERDAY IS BUT A DREAM AND TOMORROW IS ONLY A VISION; BUT TODAY WELL LIVED MAKES EVERY YESTERDAY A DREAM OF HAPPINESS AND EVERY TOMORROW A VISION OF HOPE — HOPE OF UNDERSTANDING, PEACE AND LOVE BETWEEN ALL MEN.

THANKS THANKS THANKS THANKS


Bill Rogers

Ko Hirasawa
Governor,
District 365 Rotary International
Kyoto, Japan
Dear Friend Ko :

6 June 1968

I am at home again, safe and well and gradually getting back into my work routine ; this is somewhat difficult after such a wonderful eight weeks of association and entertainment among so gracious and gentle people as are your countrymen. There seemed to me to be a happiness of heart in all whom I met ; and this is the way I will remember you always.

The young men of my Group Study Team are now involved in speaking to clubs of our district and each one is singing praise for the hospitality of your homes and the personal warmth of your people, Rotarians, in their efforts to make all of us feel a part of your lives. We are truly so grateful.

On last Saturday at our District Assembly meeting in Carmel-By-The-Sea I reported to Governor Alan Christensen and to the past governors of District 522 on our visit with you and your District 365. They are each and all very much enthused about this Rotary Program and regretted to hear from in-coming Governor Grim that Rotary International as of now does not plan to permit our District to participate again this coming year. Most of us held some hope of the possibility of continuing the program on the district level during any year when R.I., does not see fit to sponsor but this hope is of course definitely in the embryo stage. I do feel that our new governor shows evidence of being internationally minded which I hope will prove true.

I must tell you that our Madera Club acted unanimously in accepting the invitation of your Kyoto East Club through President Inouye to become Sister Clubs; both the present Board of Directors, in a called meeting and the in-coming Board of Directors (verbally) have approved this relationship between our clubs. It has been suggested that you and I be given the privilege of carrying on this relationship with a hope that a definite project or projects will be found and adopted between us. I have observed in the past so often Sister Club Pacts or Matched District Pacts exist almost exclusively on paper ; you and I, given the opportunity, will change this. Our Club President, Truman Parker will be replying to your Club President Inouye very soon and I have asked for a copy of his letter which I will forward to you.

Rotarian John S. Kikawada of the Sakai Rotary Club is planning to lead a group of sixteen of your young students on a three week tour to our country —specifically to California, for the purpose of experiencing and learning our home life. I will try to have them as guests for a day or two of Rotarians of Madera and if this happens we will hope to show them local sights and our beautiful Yosemite Park.

You will remember a discussion between yourself, our Study Team and myself of the possibility of certain college students coming here to study conversational English in one of our colleges. In line with this I wrote letters to the Nara Club and the Ōtsu Club Presidents but have not received any reply from either. Nor have I heard anything more from either of the two students expressing interest.

I cannot tell you how much I appreciate the photograph of my great friend Ko which came to me a few days ago ; it will be placed in a frame especially chosen and will hang on my office wall among several other very select and preferred friends who have first and meaningful places in my life. Please believe me when I say again that your welcome, your friendship, understanding support and hospitality will always warm the hearts of “my boys” and me.

I fervently hope that Mrs. Hirasawa's health is returning in full flower ; please convey to her my thoughts.

It will be very soon now that your good secretary "Maki" departs for our shores and we shall hope that she makes room in her plans for a visit with us.

Most sincerely,



Wm. S. Regers
WSR/f

—STATEMENT OF ROTARY GROUP STUDY EXPERIENCE—

• **Bruce Rowlison**

As I view two months experience in Japan, two things stand out in my mind. One is the warm heartedness of the Japanese people. You have taken us into your homes, shown us your industry, explained your national treasures, revealed the beauty of your shoreline and splendour of your mountains.

The second high point in our trip has been the new friendships we have made. We shall always remember and forever feel indebted to the families with whom we stayed while visiting your country. Thank you for the opportunity to see your country in a way most foreigners never can.

• **Robert A. "Bob" Meyer**

Dear Governor and Rotarians :

This trip to Japan has been very exciting and educational. We have seen much of your rich culture. The temples and shrines are an excellent reminder of the background of Japan. The large, modern factories with their advanced technology are good examples of your increased standing in the world market. The most important part of the trip for me has been the opportunity to stay in Rotarian homes. Here we have been able to make personal contact with the people of Japan. This trip have had many rewards for me and there will be more if some of the people I have met may come to my country and I can return this wonderful experience. Thank you all, you have done.

• **Carl F. Buxman**

My visit to Rotary District 365 of Japan has been the wonderful experience. I shall long remember the many wonderful people that I was able to meet and talk to while here in Japan.

As you know I am a teacher of young high school students. I am sure that when I speak to a young people about the international problems facing the world, I will be able to open their eyes to the best solution. That solution is love and understanding between people of the world.

You, Rotarians of Japan have been very generous to me. Thank you for a wonderful stay in Japan and I sincerely hope that we can meet again.

• **Jeffery Meeks**

Traveling in Japan has open the new gateway to knowledge about the people, their traditions, culture, business climate, and social life. It has been interesting to observe many changes taking in so many phases of life in this country.

The mobility of the people and the trend towards urbanization is presenting many problems. The struggle of the younger generation to gain their own identity and the torrence of the old holds and told problems. In the business world the big cooperations are looking toward mergers and acquisition that will place them in a monopolistic position in the markets. Yet it is worthy of note the increase of the small business. The old traditions that have remained strong for so may years are swaying in the waves of change. What does all this add up to and where is it taking this great country can only be told by time itself.

Looking at it from another side, one sees the kindness of the pepole and their tremendous power of reasoning and understanding. There is a desire to be tolerant of each other and to coexist in everyday life free from showing outwardly their emotions, frustrations, and anxieties. Respect and humbleness is a great asset and if this can be maintained, Japan will always be a nation looked upon by other countries with envy.

• **James West**

If any Japanese have ever had any doubt as to his country's ability to mechanize and industrialize after World War II, he must be living in a very narrow world indeed. If his doubt continue to cover the subjects of Japan potential tourist market, the beauty of his country in comparison to the rest of the world, his own culture and heritage, and his homeland's ability to contribute to the earth's store of art and literature, he just has not toured Rotary District 365 !

Since our arrival in Japan, we have been throughly and without censor, exposed to this highly impressive sections of Honshu island. In every single instance we have been favourable impressed. Japan is truly the dramatic example to all of Asia as to be what can be accomplished with the intelligent use available row materials, are friendly and cooperative attitude toward many other nations, the high stress upon education and thus the effective use of modern technology. Coupled with this, Japan still maintains an active retentions and study of her roots and heritage. It is truly a stimulating experience to observe this at first hand. I must say that the District 365 Rotarians have extended us every courtesy and hospitality. It has exceeded all of our expectations. They have been very organized. The tours have been well planned, diversified and extremely interesting. I am sure we have taken care of as well if not better than any Group Study Exchange Team has since the history of the program was started.

• **Charles "Chuck" Bloch**

The past two months have given me a deep appreciation of the rich culture, history, present-day industry, and way of life in Japan. My thanks go to the Rotarians who have made this experience possible.

Exposure to your nation has given me a sense of humility. Japan can identify its culture beyond 2,000 years. In contrast, my nation has been developing a national industry for less than 400 years.

Your people must be very proud to be Japanese, and your land must be very proud of its people. For my part, I am very proud to know Japan, and the Japanese people.

For more than 100 years, Japan has learned from the western world. Now, I think that it is time for the west to learn from Japan.

Thank you for giving me an understanding of your country. I am leaving Japan as a richer person in knowledge, understanding, and philosophy.

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA

% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN



No. 14 June 30, 1968

ガバナー月信 第14信 (昭和43年6月30日)

第365区ロータリークラブ

国際ロータリー第365区ガバナー

会長 並びに 幹事 殿

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長

感謝と祈り

梅雨の晴れまに遠くの東山はかすみ、庭の緑も輝くばかりです。その中でひときわ目立つ白い花、それはクチナンです。去年私がガバナー月信の第1号を書いた時にも、妙に私はこのクチナンの花に心をひかれたのですが、もうあれから1年、私は同じ机で最後のガバナー月信を書いているのです。このガバナーの1年は長いようでもあり、またまるで一瞬のようでもあります。無我夢中で過したというのが偽らざる私の気持ちです。

今ガバナーを終るに当って、私の胸に浮かぶものは、一にも感謝、二にも感謝、三にも感謝でございます。会長、幹事をはじめ、理事、役員、会員のすべてに対し、心から厚く御礼申しあげます。わけても手足となってお助け下さった京都の地元クラブ、ホーム・クラブ、ガバナー補佐の方々の徹底した御奉仕には感謝の言葉もございません。

最後のガバナー月信はロータリー年度最後の6月分の出席報告などがありますので、新年度にまたありますが、もう新年度が始まっておるのです。御承知の如く、ロータリーでは原則として、1年ごとに役員、理事、委員長などが変わりますが、これはロータリーの硬直と老化を防ぎ、たえずロータリーに若さと創造性を与える意味において、まことにすばらしいことだと存じます。これはまた、ロータリアンが互に仕事を分かちあって、出来るだけ多くの会員がよくロータリーに通じるというような意味でも、大切なことだと思われまます。

我々は立場が違っても、みな等しくロータリアンであり、年ごとにいろいろ情熱を燃やしてよりよきロータリアン、よりよき世界人になりたいものです。いくつになっても人生には余りにも学ぶべき事が

多うございますが、しかし、さればこそ人生は限りなく尊いものだと思えます。我々個人はいわば地上におけるひと時の旅人に過ぎませんが、しかしその努力のリレー的集積によって人類の歴史も文化もつくられて来たのであり、今後もそうであります。そういう角度から見ると、真の意味で完成された人間像などというものはなく、すべては相対的な当座的の人間像で、長い将来に亘っての完き人間像はいよいよこれからだと思われまゝ。人間を特長づける精神活動の中核たる大脳皮質の構造もそれを裏がきしており、大脳皮質を占める凡そ140億の神経細胞の全部を利用しつくした人間は、如何なる天才をも含めて過去5万年の人類の歴史の中にはまだ一人もないということであり、神経学的立場からは人類の将来にはまだまだまことに前途洋々たるものがあり、むしろ人類の将来はこれからだとも言われるのであります。

こういう人類の運命を考えると、殺しあうのではなく、互に奉仕の精神で助けあうロータリーの意義はいよいよ深くなります。一日も早く殺しあうような時代を終らせて、互に助けあう時代になるよう努力いたしましょう。そしてこの夢がただの言葉ではなく、之を日々の生活の中で生かすように頑張らしましょう。祈りはあくまでも大きく、しかもこれを最も身近かのところから実行いたしましょう。

ありがとうございました。ありがとうございました。

出席率表 (1967年7月~1968年6月)

1カ年平均 96.08%

順位	クラブ名	上半期平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	下半期平均	1カ年平均
1	和泉	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
2	京都山	68'4.13承認	—	—	—	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
3	橋本	100.00	100.00	100.00	99.48	100.00	100.00	100.00	99.91	99.96
4	松原	99.80	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	99.90
5	鮎川	99.78	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	99.89
6	鶴野	99.91	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	98.94	99.82	99.87
7	長八	99.27	100.00	99.52	100.00	100.00	100.00	99.52	99.84	99.56
8	近江	99.55	99.36	100.00	98.29	99.38	100.00	99.39	99.40	99.48
9	新水	99.09	100.00	100.00	100.00	99.53	99.24	99.53	99.72	99.41
10	宮口	99.53	99.45	99.46	99.15	98.94	99.47	98.72	99.20	99.37
11	福知山	99.22	98.94	100.00	99.50	99.50	99.60	99.00	99.42	99.32
12	高津	99.18	100.00	98.67	96.88	99.28	98.59	100.00	98.90	99.04
13	大田	98.45	97.55	97.86	99.02	99.59	98.39	98.39	98.47	98.46
14	五條	99.09	99.39	96.89	99.16	95.12	98.48	98.03	97.68	98.39
15	茨木	97.88	98.43	98.25	99.22	98.28	98.67	100.00	98.81	98.35
16	西宮	98.72	99.15	99.68	97.76	97.47	95.59	98.11	97.96	98.34
17	高槻	96.65	98.53	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	99.76	98.21
18	京都	97.45	99.53	98.93	98.22	98.94	98.24	98.56	98.74	98.10
18	彦根	97.49	97.89	99.66	98.73	98.31	99.32	98.31	98.70	98.10
20	京都北	96.49	99.33	99.33	100.00	99.33	98.99	97.62	99.10	97.80
21	京都東	97.96	96.95	99.07	98.77	96.95	96.98	96.69	97.57	97.77
22	宇治	97.43	97.17	97.73	98.69	97.55	98.28	97.85	97.88	97.66
23	大阪淀川	97.12	98.33	98.75	97.00	95.96	100.00	98.79	98.14	97.63
24	枚方	99.18	97.78	95.45	96.59	95.49	95.53	95.00	95.97	97.58
25	京都南	98.02	96.06	97.38	98.05	97.04	95.70	96.56	96.80	97.41
26	大田東	97.83	95.56	96.52	96.74	97.83	96.96	97.78	96.90	97.37
27	大阪津	96.55	99.30	97.51	98.26	97.53	98.89	96.53	98.00	97.28
28	大宮	96.85	95.27	98.03	96.84	98.65	98.65	97.97	97.57	97.21
29	大津	97.47	96.27	97.91	98.24	95.37	96.96	95.93	96.78	97.13
30	高石	96.00	97.73	100.00	98.49	97.73	97.73	96.97	98.11	97.06
31	大阪大	96.24	97.39	97.92	97.39	98.04	97.30	97.10	97.52	96.88
32	武生	96.69	99.04	96.80	97.12	96.23	95.13	95.21	96.59	96.64
33	御所	98.13	94.55	95.85	96.00	94.10	96.00	94.20	95.12	96.63
34	和歌山	96.50	99.17	98.75	96.02	97.56	93.81	93.79	96.67	96.59
35	大和	98.05	94.72	95.39	94.93	94.56	95.14	94.65	94.90	96.48
36	大阪	96.25	97.37	97.37	96.52	95.94	95.41	97.04	96.61	96.43
37	大田南	96.46	97.59	97.22	96.04	95.67	94.03	95.49	96.01	96.24
37	池田	96.21	95.48	96.67	95.56	96.67	97.23	96.02	96.27	96.24
39	福井	96.35	96.61	96.65	93.47	96.72	94.75	96.72	95.82	96.09
40	福奈	96.32	93.80	95.77	95.06	95.94	97.18	96.73	95.75	96.04
41	大阪住吉	96.34	96.76	96.30	95.55	95.17	94.67	95.84	95.72	96.03
42	大福	96.68	96.80	93.40	95.61	95.96	94.45	95.11	95.22	95.95
43	福勝	95.91	97.98	97.73	96.21	90.91	93.94	98.44	95.88	95.90
44	敦賀	96.04	95.51	98.08	97.44	92.82	96.16	94.30	95.72	95.88
45	敦賀	94.95	97.39	96.03	97.64	98.18	97.73	93.64	96.77	95.86
46	小浜	96.88	96.58	90.39	91.67	97.44	94.23	94.87	94.20	95.54
47	和歌山	96.74	96.72	93.72	95.38	93.00	93.37	92.86	94.18	95.46
48	佐田	96.73	94.39	90.68	95.59	97.12	95.03	91.83	94.11	95.42
49	泉南	96.09	90.91	94.53	95.79	94.79	94.12	96.87	94.50	95.30
50	田辺	95.20	96.41	96.79	94.15	92.27	96.00	95.98	95.27	95.24
51	和野	95.50	94.78	94.37	94.44	95.98	94.33	95.18	94.85	95.18
51	大野	95.55	95.97	95.21	95.63	95.34	92.97	93.76	94.81	95.18
53	堺	94.62	94.61	96.61	94.39	95.50	97.80	93.06	95.33	94.98
54	貝塚	93.62	94.57	96.15	95.00	95.58	97.22	96.67	95.87	94.75
54	舞鶴	94.00	96.28	97.56	92.68	95.79	96.19	94.50	95.50	94.75
56	豊中	94.91	93.64	94.06	93.64	94.81	94.90	95.32	94.40	94.66
57	大阪	94.98	96.19	94.90	95.89	93.08	91.20	91.44	93.78	94.38
57	大塚	95.25	96.23	95.28	94.72	93.43	87.50	93.87	93.51	94.38
59	八尾	94.34	91.67	92.27	92.69	94.65	97.07	93.75	93.68	94.01
60	尾東	68'1.24承認	95.45	89.77	88.64	94.29	97.92	97.92	94.00	94.00
61	白濱	93.53	93.78	95.27	95.14	93.92	93.92	93.51	94.26	93.90
62	峰海	92.72	92.57	93.65	95.83	96.84	95.90	92.95	94.62	93.67
63	吹田	93.25	94.09	92.59	94.71	91.56	93.49	90.34	93.80	93.53
64	吹田	94.37	91.35	89.55	90.87	93.34	92.08	96.04	92.21	93.29
65	吹田	94.89	93.70	92.33	90.41	89.29	92.47	91.52	91.62	93.26
66	大阪	88.71	95.16	94.35	100.00	97.22	100.00	98.89	97.60	93.16
67	大長	92.48	92.41	93.59	92.96	94.01	92.24	92.06	92.88	92.68
68	長瀬	93.48	94.05	91.23	91.82	87.28	90.57	95.59	91.76	92.62
69	宮田	92.91	90.22	92.37	91.30	88.59	92.05	91.86	91.07	91.99
70	宮田	91.97	91.31	93.16	90.43	93.48	89.82	91.82	91.67	91.82
71	守口	92.40	88.78	88.98	91.67	88.94	91.92	85.75	89.34	90.87
72	粉河	94.50	87.50	83.33	81.94	86.46	89.17	86.46	85.81	90.16
73	枚日	92.26	86.63	88.37	81.40	83.33	83.81	95.12	86.44	89.35
74	八日市	85.02	92.24	86.72	90.97	87.90	79.17	91.49	88.08	86.55
平	均	96.19	96.12	95.95	95.80	95.74	95.81	95.94	95.93	96.08

あ と が き

わが京都東ロータリークラブの誇りであるパストガバナー平澤 興先生が、ガバナーズ マンスリーレターに数々の名文を残されて既に、長日月が経過している。

第16代京都大学総長として教育・研究に尽瘁された先生は、またロータリーの四つのテストの実践に徹せられ、体の隅々までロータリー精神が浸みわたり、正にロータリアンの鑑である。

第20年度会長 松居久左衛門会員の御発意で、今度、平澤先生のガバナー時代の御言葉のうち巻頭言を中心に抜萃し、一冊に纏めて刊行してはとのお申し出があった。

新しいロータリアンは勿論のこと、古い会員のためにも極めて有意義な企画と共鳴し、早速実行に移させて頂くことにした。印刷まで時間的余裕がなかったので不備の点もあるかと思うが、ロータリアンの友情を以て、お許し頂きたい。

昭和59年4月23日

京都東ロータリークラブ
会長 満 田 久 輝

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER (復刻)

昭和59年5月11日印刷
昭和59年5月18日発行

発行者 京都東ロータリークラブ
〒605 京都市東山区祇園町北側275 ABL 4F

印刷 河北印刷株式会社
